

(1頁)

佐々村 潟大新田御築立書留メ

一、寛文四甲辰歳 赤崎ヨリ御普請初ル

御家老

山瀬新五兵衛殿 御越被成候

一、延宝三乙卯歳十月 汐止

合拾二年ニ而土肥御築立成就

龍神御祭

土肥ニ而大神楽有リ

御普請奉行

吉村市郎左衛門殿

御支配

大小頭

吉永七郎右衛門

同

廣川善右衛門

一、延宝四丙辰年、初而作初リ

一、貞享二丁丑年五月廿三日夜、洪水にて

大新田土肥、三ヶ所打やぶり、赤崎いわし渚

(2頁)

蔵の下御普請成就ヨリ十一年めなり

六月、赤崎方御普請初リ、十月汐止有リ

一、貞享三戊寅年十一月末方御検地在リ

※貞享三年の干支は丙寅。原文の戊寅は誤記

検地奉行

手代

山口伊右衛門殿

山口兵左衛門殿

御郡代

同

山田宇平次殿

永石六左衛門殿

十二月末御検地御仕廻

一、貞享五辰二月、須崎横道通りより沖方免

御検地初リ

検地奉行勘定頭

手代

金丸弥七兵衛殿

近藤孫右衛門殿

御郡代

同

山田宇平次殿

西川儀左衛門殿

一、田方五拾壹町七反八畝式拾壹歩半

高 七百九拾九石四斗三升九合

メ右御築立大新田御物成相納候分

一、田方五拾五町四反二畝拾九歩

高 八百三拾六石七斗三升式合

(3頁)

メ 右大新田土肥外潟御高守御座候分、古石垣御座候

一、寛政九巳年、御清帳写シ御高前左の通り

大新田

一、元 田方六拾四町四反五畝九歩半

高 千三拾壹石三斗四升三合

拾貳町七反九畝貳拾歩

内 高貳百三拾三石貳斗壹升壹合

万引高

残而

五拾壹町六反五畝拾九歩半

高 七百九拾八石壹斗三升貳合

御物成相納候分

一、安永二癸巳年閏三月廿日、大新田荒地見取所檢地有リ

御高相極候

檢地奉行勘定頭

代官

川尻武右衛門殿

原幸左衛門

いわし^三淵^三

御郡代

庄屋

井上宗左衛門殿

橋本貞八

唐(投)あみうち

役人帳元

浜使

有浦今右衛門殿

恋塚兵八

天満^三横田留蔵殿

手代

里初頭

南部金次兵衛殿

靱右衛門

吉永斧左衛門兩人

同

古川初頭

村木衆之助殿

喜右衛門

大ぶな小ぶな

手代

口石初頭

中倉郡之丞殿

榎右衛門

なまず取

同

里五人頭

雪浦崎右衛門殿

林左衛門

土肥^三而直^三肴

同

御普請組大小頭

国富小善太殿

吉永斧左衛門

相成^リ酒事

(4頁)

一、大新田赤崎井樋大うて入用土取場、小浦助次郎作、本えご筋／横壱間通左右共ニえごさらへの時、土堀上ケ申候場所ニ

御座候ニ付／御高相成不申趣^ニ高引ケ居申候内、壹反ハ土取

リ場ニ相極リ／御高懸リ不申候、瀧左衛門作同様、其外えご筋

同様の事、本土肥／急成る御普請出来仕候節ハ勝手次第ニ土

切取り、跡之義は／御見分の請、何レ共御差図可有之候間、

左様可被相心得と有之／候ニ付書記シ申候、吉永斧左衛門、

同廿一日雨天御清帳御極メ／同廿二日、相神浦之様御越、川

下新田同様御改の由

一、いわし^三淵^三荒地^三共ニ四反七畝拾歩、内壹反土取場ニ引

残て三反七畝拾歩、土肥土取場ニ受取、斧左衛門願指出

(5頁)

(5頁)

安永三年三月願の通相濟、飯野幸太夫殿裏判有、郡代井上宋

左衛門殿／代官原幸左衛門、庄屋橋本貞八、代相濟、受取申

候

一、安永三年三月廿日、小浦湯地、光明寺塩浜新田願之処

大新田外古石垣内、御高守荒地ニ懸ケ願ニ付、御見分在リ

御奉行

代官

中嶋十蔵殿

原幸左衛門

勘定頭平組

庄屋

平組

坂口太次衛門

飯野幸太夫殿

橋本貞八

石田郡助

(6頁)

御郡代 御普請組大小頭
井上宋左衛門殿 吉永斧左衛門 〆

帳本 永石常之助殿 小頭 石田武助
手代 南部金次兵衛殿 同 真藤有右衛門
同 木寺富三郎殿

右潮盛^リ船より一通御見分、潟上^リ候^而方御高守の内荒
御檢地有^リ、乗船も三艘かねのて^{ヨリ}御乗被成、十蔵殿
御差^函^{ニ而}御自分御乗船^{ニハ}、幸太夫殿、宋左衛門殿、幸左衛
門、斧左衛門^ノ武助、貞八、兵八メ乗申候様との義^{ニ付}、一
船^ニ乗組御見分相済^ノ兵八所^ニ御上^リ御酒有、光明寺方酛
(酛カ)酒一桶一樽参^リ、浦目附^ノ下川芳右衛門、青木小左
衛門 光明寺役人十之助と申仁参^リ、小浦^ノ肝煎樽左衛門、
清吉、里村筆取友八、口石初頭檉右衛門、里初頭^ノ初右衛
門、老人出候様との義^{ニ而}左平次、孫左衛門^ノ大勢罷出候
事、此古^ノ石垣以後^{繰り返し記号}、御新田御取立可有御座候間、堅^ク
石砦本^{ニ而}も^ノ所中手指不申候様、相心得可申旨、十蔵殿被
御渡候^{ニ付}書留置申候

一、光明寺塩浜新田願濟、安永三午七月より取懸^リ

(7頁)

同年十一月廿三日潮留有^リ
一、安永四未三月末頃方塩取懸^リ
一、安永二癸巳年黒石新田築立潮留有、古川酒屋青木小左衛門
石田武助式人最合^{ニ而}、安永三甲午年方作付^ケ有^リ
安永五甲(申カ)五月廿五日風雨^{ニ而}打切^リ
一、安永三甲午正月方新水返一ヶ所御普請取懸^リ、段平
相願被指越、船頭今西六太夫、はね長式拾間、横四間上^リ

七尺^ニ築立申候

一、安永四未十月四日赤崎土取場、小倉作助請持作所
高願濟檢地在^リ、去^ル年改の通相極、御普請の節、土取
申候迄ハ、定物成御清帳形書^ニ相極候、土不足の時ハ何時^{ニ而}も
勝手次第^ニ土切取^リ可申候事

檢地奉行 代官
鴨井助五平殿 大浦小一左衛門
御郡代 庄屋
井上宗左衛門殿 吉田五右衛門
帳本 都野川郡兵衛殿 濱使 福田形右衛門
手代 浦瀬辰平殿 大小頭 吉永斧左衛門

其外 小役人中 立合 相極候^{ニ付}書留置候

一、安永四未八月三日、口石村大浦弥太六、大新田井樋番
申付相勤申候

一、安永四未年、赤崎地ノ井樋岩伐、老艘内老尺切入

沖ノ手老艘右同断、四寸ほど切入

一、安永六酉冬ノ戌年ニ懸ケ、東光寺くり作事有リ

一、安永八亥六月十七日ノ大新田内井樋西ノ老艘新巻直シ

水通四尺五寸、長五尺八寸

右の口々、先祖方親斧左衛門書留、文化四丁卯四月三日書改ル

(8頁)

先祖書

吉村市郎左衛門殿御代

一、吉永佐之右衛門十六才ニ而御普請足輕ニ被召出、三年相勤

小頭被仰付三十二年相勤、大小頭ニ被仰付式拾七年

都合六十二年相勤御暇奉願候処、中小性ニ被召成、年々

御心附八木三俵宛被下置候、倅右伝次江直ニ大小頭

被仰付候、親佐之右衛門勤の内、大小頭見習被仰付、九年

相勤申候、本沢甚兵衛殿御代、大小頭被仰付四十二年相勤

御暇奉願候処、親同様中小性ニ被召成、御心付当時米

式俵被仰付候、倅斧左衛門、親右伝次勤の内見習候様

八年付添相勤申候処、直親跡大小頭被仰付、御頭馬淵

八郎左衛門殿御代都合式拾一年相勤申候、子十一月八日病

死ノ仕候、倅右伝次親斧左衛門存生の内、城半右衛門殿御目
見ノ為仕、小頭助御鉄砲、子五月十日ニ二詰相勤申候、然ル

処ノ子十二月廿九日、斧左衛門跡大小頭役、石田武助ニ被仰

付其跡ノ小頭同月右伝次被仰付候、拾五才、寛政二成六月廿

三日ノ森田十左衛門殿御代、大小頭見習被仰付十一年相勤、

小頭ノ都合式拾一年相勤申候、右小頭勤の内、森田十左衛門

殿ノ頭附ニ而大坂ニ一年、右同人ニ附今福一件の節、六十日

神戸勝左衛門殿ニ附、江戸ニ一年相勤申候、卯十一月近藤

(9頁)

郡太夫殿御代、親名斧左衛門と改名仕候事

一、寛政十二甲(申力)四月廿日、吉永斧左衛門、石田与兵衛跡

大小頭被仰付ノ御頭高橋市左衛門殿御代

(10頁)

先祖方四代ノ

吉永斧左衛門代書留メ

一、天明元丑正月元日、大雪ニ而惣組中の渡海不相成、日野浦泊リ

一、同正月十一日御普請初、於長屋ニ組中ニ盃など致相仕廻申候

一、同年春、栗林新堤取懸リ出勤、黒石堤敷樋替

一、天明五巳八月廿八日、城半右衛門殿御用ニ而御登 城被成候

処ノ新組被成御預、同日坂為左衛門殿ニ御普請組被成御預、

九月二日ノ御引渡、右伝次直ニ相詰

一、天明七未二月廿日、坂為左衛門御不快ニ付、御組被指上候ニ付

安藤庄兵衛殿御仮支配

同年九月御参勤の節、於大坂御留守居森田十左衛門殿御普請組被成御預候、天明八^甲二月十八日、為頭付と

右伝次老州船方平戸出船、人足老人召連、瑞雲寺和尚

上下三人、御台所煮方安永度右衛門、御船手方老人上乘リ

右人数同船、老州印通寺^ニ着一日滞船、鬼岩屋等

見物致、三月十三日着坂、直^ニ中嶋御屋敷^ニ上リ、樽肴等

差上^グ

一、甲三月十九日夜

殿様御下国^ニ付御着坂、同廿日一日御滞坂、石山御城

被成御勤、同廿二日御出坂被遊候、竹哉殿・藤蔵殿・善八殿

面談

(11頁)

一、同年八月、森田十左衛門殿、於大坂大目附被蒙仰候

同年九月、大阪詰交代被仰付候旨申来候、代^リ葉山左内殿

被仰付十月二日着船^ニ付交代、同廿六日、十左衛門殿乗込

余延引^ニ付、十二月三日筑前めいの浜方上^リ陸行、唐津

通^リ同六日平戸^ニ着、右伝次・為人・五郎吉供^ニ

十二月十四日大小頭武助、小頭組中惣登^リ、同十五日立石左

兵衛殿方御組引入、同十六日滞留、同十七日稽古、同十八

日皆々引取同十九日休足、同廿五日平戸詰^ニ出勤

十二月廿七日、諸組大小頭中新馬場見分被仰付登^リ

武助相見得、来西正月三日御備立前方と違申候由

西正月三日早朝、赤ぬり御門の内^ニ行、無程

殿様三重御やぐら^ニ御出御座候得ば、新馬場繰込

組頭順席^ニしやうぎ懸^リ、先^ニ指物為持組中^ニ形^ニ

並、先^ニ備立段々繰出^シ、御普請組末席^ニ相備

一、年号代^リ寛政元^ト成^ル

一、同年五月六日、御上使平戸^ニ御着、使者屋吉村

谷村御宿^ニ成^ル、同七日御渡海、佐々御昼、中里御泊^リ

佐々出役^ニは戸川織右衛門殿、御門番、立番、御普請組方

松小紋字の羽織・棒、平戸方来、何^レも戸川織右衛門殿

(12頁)

御指図請、相勤申候

一、寛政二戊二月八日、今福一件^ニ付頭附^ニ而参^リ

出役御人数滞留の日数左の通^リ

御先手頭御奉行

大小頭

一、瀧川権左衛門殿上下八人御組引連 壱岐与次左衛門

御普請組頭大目付

吉永右伝次 坂口重右衛門

一、森田十左衛門殿上下八人 若党 人足三人

横田甚助 安村金治

同九日調川方御組中呼出^ニ而大小頭石田与兵衛 出口喜三次 小頭

平組拾貳人

御先手頭

一、村尾覚助殿上下八人御組引連、大小頭、井元要八

御城方役頭

一、原半平殿上下五人、追而今福押役被仰付候

勘定役

下目附

一、吉木形右衛門殿上下五人 一、出来嶋利助殿上下三人

志佐筋御郡代二月五日出立

大納戸物主

一、牧山権右衛門殿上下四人 一、深見又次右衛門殿上下三人

奉行衆書役

一、貞方多市殿上下貳人

右御人数二月八日平戸出立、調川村ニ御越、九日御延引

同十日今福ニ御越、肥前佐賀御取合ニ相成、彼ノ方も浦ノ崎ニ

出役衆有之由、追々出張の人数御取しづめ、召取リ

相済引取左の通リ

御家老 二月九日調川庄屋ニ御出張、同廿八日御引取

一、松浦縫殿殿、御上下三拾人余、与力組被召連

(13頁)

御奉行

一、秋山茂右衛門殿 上下八人 二月九日出張 同廿八日御引取

御用人見習御家老手付

一、古川右衛門兵衛殿 上下五人 出引 右同断

新組頭

一、真壁源五太夫殿上下五人 御組拾五人小頭貳人 小西幸右衛門

大小頭

新組頭

一、安藤庄兵衛殿 上下五人 御組小頭右同断 霜川和左衛門

新組頭

一、鳥居兵庫殿 上下五人 御組小頭右同断 大石貞六

右御三人志佐辺迄船廻リ

源五太夫殿、兵庫殿御兩人ハ、於今福ニ二月廿六日召取の者

貳拾六人御座候ニ付、調川御庄屋迄御先手ヲ連送右御兩人

新組ニ相渡、廿六日夜通、同廿七日平戸ニ連越じろふ致

相神浦御普請頭

大小頭

一、立石奎兵衛殿上下五人 御組十五人 小頭貳人 郡郷右衛門

御堺奉行

一、中嶋奎右衛門殿 上下五人

右御兩人、横辺田御堺通リニ二月九日御出張、三月四日御引取

御作事奉行

一、市山恒八殿 上下四人 才料貳人

右同役

一、原右内殿 上下四人 大工老入

又右御兩人 二月八日御出役 同廿九日御引取

大納戸役人

一、南部勇平殿 上下三人 二月八日出役 三月二日引取

(14頁)

御家老書役

一、神田直治殿 上下貳人 二月八日出 同廿九日引取

御台所

一、松永瀧右衛門殿 二月八日出 同廿九日引取

右同断
一、山崎八百七殿 右同日出 三月十四日引取

右今福中の人民、年十五以上不残今福立去り、肥前の中浦ノ崎小松山ニ思ひ／＼に小屋を懸ケ居申候由、右御取合ニ付久原押屋敷迄一両度も瀧川、森田御越被成、彼ノ方ヨリも

御越有、江迎庄屋ニ而御対談、二月廿四日廿五日ニ今福人民追々銘々家々ニ引取申候様子、同廿六日江迎庄屋人民不残

御呼出し、御法通リの御書付御読聞セ、其上ニ而老人宛名前御呼出シ御尋筋有之候ニ付、繩懸ケ平戸江被指送都合廿四人

其前式人、其後四人、都合三拾人被召取候事
右夫々ニ相納リ、今福ニ出役の人数早房丸迎ニまいり

瀧川、森田其外代役中、四月八日引取、原半平殿為押と御残リ、足輕式人被附置候事

今福一件頭取常七と申者、二月廿五日夜にげ申候由ニ而相見得不申、其後段々御尋御座候而、被召取じろふ致

居申候、ろふやニ而病死致、常七老人死首打さらしニなり
(15頁)

一、寛政二戌八月九日、森田十左衛門殿御用御登 城被成候処御先手被成御預、御普請組同日神戸勝左衛門殿被成

御預候、同十四日御引渡、直右伝次詰
一、同四年子七月廿三日、夜大風ニ而近來の大損耗、頭詰ニ

居申候、追々米なども高直ニ相成リ老儀ニ廿八匆九匆、三十目／余ニ相成申候

一、同五年^丑正月三日御備、勝左衛門殿御頭、寒氣強難義
一、同年正月廿八日、勝左衛門殿江戸詰被仰付、右伝次頭詰被召連／丑三月十二日宿元出立、同廿日平戸出船、同廿六日

下ノ関着
御普請組頭 吉永右伝次、山川栄治、世知原
一、神戸勝左衛門殿上下七人 人足ニ富蔵、百太郎、五郎八メ 幸助

御長柄奉行 一、岩永八郎太夫殿 上下六人 田平方

御用人見習 一、山鹿伊織殿 上下五人

一、近藤岐文殿 上下三人 乗合 四人上下廿老人
四月三日、隙相願伊織殿、岐文殿乗船伊勢丸ニ便致

八ッ頃多渡津ニ着船、金毘羅ニ参詣致、六拾町三里、暮過下向、桜屋ト申茶屋ニ而酒茶附等給べ夜通帰、夜半頃／本船ニ乗リ

(16頁)
同五日、兵庫ニ而乗船、万吉ニうつり同六日夕川入、同七日

上リ八日九日滞留、九日夜船ニ乗、同十日伏見ニ着、支度など相仕廻出立、木曾路致道中無滞四月廿四日／江戸着、見物など致

一、同年六月十九日、御書到来

御上ニも神田橋御門番被為蒙仰、御頭勝左衛門殿御番所

御使者御勤、即日御番所御請取、御番頭戸川織右衛門殿・

神戸勝左衛門殿・番目附深江与五平殿・久間貞八殿・千浦

庄七殿・近藤岐文殿・平士磯野定兵衛殿・岡清兵衛殿・

岡野庄之丞殿・其外表中代合、御徒士目附御組小頭

足軽下座見等御雇入、十日宛代リ合、内代五日宛

一、七月廿六日、勝左衛門殿病氣ニ付、神田橋御番頭

御断願被指出候処、願の通被成御免、直ニ下リ被

仰付候、九月六日江戸出立、甲州木曾道中致し

八坂玄悦殿同道、同廿三日大坂ニ着、同廿五日小早

乗込あぢ川出船、十月十四日朝平戸ニ着、栄治

幸右衛門人足ハ吉田ノ者久作と申者連下リ、同十五日

罷帰、同十七日又々登リ与兵衛殿惣組中登リ、同十八日

御道具引入、同十九日稽古相仕廻

(17頁)
一、寛政六寅三月十四日、勝左衛門殿御死去ニ付、御組被指上候

由 与兵衛殿参リ合セ喜三次詰、立石左兵衛殿仮支配

一、同年十二月廿三日、近藤郡太夫殿被成御預、卯四月朔日

御道具御組引入、直ニ相詰

一、寛政七乙卯六月朔日ヨリ御改正被出仰、両御普請組

去寅年当正月方五月迄、組勘定取調指出申候様ニと

申来、急ニ仕立指出申候

一、佐々組支配御普請奉行、木寺紋右衛門殿ニ被仰付、日々

出勤、組中出勤面附致、大小頭名前印形致候上

ベ印形日々御座候

一、川下組御普請奉行中田万之丞殿、右同断

御普請場、出引休刻限、勘定場書出シ

右の通り

一、朝五ツ時出勤、昼休前老步宛両度休

九ツ時方中飯休四歩、夫方老步宛両度

休、夕七ツ時引申候

(18頁)
右の通、日々出勤仕候段、両組共御勘定所書出ノ置申候

一、御領分郷普請方奉行山口野左衛門殿、今浦番助殿

被仰付候

一、同年八月十四日、大新田外潟塩浜御築立御沙汰ニ而

御内見分山口野左衛門殿、木寺紋右衛門殿、中田万之允殿

一、同十五日御見分御立合人数、左之通

御奉行 御郡代 普請奉行
神戸衛士右衛門殿 沢村弥惣衛殿 木寺紋右衛門殿

勘定役 普請奉行 右同断
日高治左衛門殿 山口野左衛門殿 中田万之允殿

帳本 庄屋

南部曾平殿 松田勘六

手代
長嶋五平次殿
小佐々同
大浦宗助

同
大曲助治殿
浜使
田嶋孫次郎

代官
牧山左忠次殿
作目付
宮原治藤太

大小頭
石田与兵衛
里村初頭
安左衛門

小頭
吉永右伝次

平組
横田直右衛門

同
出口要蔵
右人数立合見分有リ

(19頁)
一、同年九月九日、三社宮御幸願相濟一日帰リ

一、同年十月十四日、中国三田尻ヨリ浜師御雇下シ相成リ

田助さつまや喜市同道ニ而四人連参リ

同十五日立合見分左の人数

普請奉行
山口野左衛門殿 木寺紋右衛門殿 石田与兵衛 吉永斧左衛門
右同断 大小頭 小頭

庄屋代
山守友助 田嶋孫次郎 初頭安左衛門 小役人中三田尻浜師
浜史 里村 平組 横田直右衛門

西村屋

浜屋庄兵衛 松右衛門 太平 三人

一、御領分中の湯地有之場所、序^ニ見分可被仰付旨^ニ付

木寺紋右衛門殿大小頭代役^ニ而吉永斧左衛門・出口要蔵・才
料など／浜師三人喜市連廻リ、斧左衛門荷馬一疋被下蔵司用
意

一、同十月廿日 川下湯見分、同廿一日立合

普請奉行 川下大小頭

一、木寺紋右衛門殿 馬場崎右衛門 小頭御組

右同断
一、中田万之丞殿 吉永斧左衛門 初頭徳右衛門

出口要蔵 小役人

代官
一、立石権助 才料 浜師
松野豊助 四人

是ハ木寺氏付人

山口庄屋

一、亀嶋平之助

新田庄屋

一、末永義左衛門

(20頁)

一、同廿三日佐世保湯見分

普請奉行 代官
一、木寺紋右衛門殿 里森弥三右衛門 吉永斧左衛門 松野豊助

同断 庄屋
一、中田万之丞殿 富川和太助 出口要蔵 初頭 浜師

筆取

一、同廿四日 早岐広田懸大手原瀉見分

普請奉行

里庄屋

大小頭

才料

木寺紋右衛門殿 豊村留平次 吉永斧左衛門 松野豊助

代官

広田庄屋

平組

浜師四人

七種笹右衛門殿 豊嶋重兵衛 出口要蔵 小役人中

一、赤子外瀉見分、こふすわ瀉、是は原惣市願濟ニ而辰巳年

早岐町

新田ニ築立候

一、同廿七日、江迎瀉見分、土肥長千百間、町数四拾町六反余

代官

普請奉行

山口民左衛門

吉永斧左衛門 松野豊助

木寺紋右衛門殿 庄屋 富野平助 出口要蔵 浜師四人

一、同廿九日、志佐瀉見分

普請奉行

庄屋

浜使

才料

木寺紋右衛門殿 市山甚助 富田治助 松野豊助 筆取直助

代官

松本茂八 吉永斧左衛門 出口要蔵 浜師四人 小役人中

一、十一月二日、御厨大崎小嶋瀉見分

普請奉行

庄屋

組

木寺紋右衛門殿 松田長左衛門 出口要蔵 浜師四人

代官

日高鹿右衛門 吉永斧左衛門 松野豊助 小役人中

(21頁)

右の通御領分中瀉地見分相仕廻、十一月三日、平戸へ渡海

一、両日延引、同六日宿元ニ引取

一、早岐大手原御手初メニ来春御築立の節、佐々瀉先御見合

十二月六日、早岐大手原御見分御越の人数左の通り

普請奉行

代官

才料

山口野左衛門殿 林左次平 松野豊助

庄屋

同

木寺紋右衛門殿 豊村留平次 筒井勇吉 小役人中

同

同

中田万之允殿 豊嶋重兵衛 折原牧右衛門

大小頭佐々 小頭

石田与兵衛 吉永斧左衛門 庄兵衛

組

浜師

松右衛門

里崎貞助 三人 太平

同 川下

組

馬場崎右衛門 堀量助 小浦方 重左衛門

市左衛門

内々ニ而兩人

一、同十二月平戸方御越ニ付、御見分立合の人数左の通り

御奉行

帳本

才料

神戸衛士右衛門殿 松尾要之助殿 筒井勇吉

代官

折原牧右衛門

当職手付 長村内蔵助殿 同 林左次平殿 山本兵吉

松野豊助

勘定役 日高治左衛門殿 浦目付 七種笹右衛門殿 四人

崎田民八

早岐押役

庄屋

浜師

原半平殿 豊村留平次 浜屋庄兵衛

普請奉行
山口野左衛門殿
西村屋松右衛門
防州太平

同
木寺紋右衛門殿
同広田
豊嶋重兵衛
小役人中

同
中田万之丞殿
大小頭代
吉永斧左衛門

平組
出口要蔵

(22頁)

右の通、御見分の上来辰春、弥御築立ニ相極リ同十五日

羽口方生月石屋忠助ニ請負ニ被仰付候

一、土肥長、六百間、銀高拾貫目ニ而石垣築立、生月忠助請負

一、同土手銀高八貫六百四拾目ニ而両御普請組ニ被仰付、左の通

御請書

一、大■大手原潟地御築立ニ付土肥土の分、私共方ヨリ

積出の通、日雇召仕御築立被仰奉畏候、則積前

銀高八貫六百四拾目ニ而誠請為仕、御築立可申上候

右御請書如斯御座候 以上

卯

十二月十五日

吉永斧左衛門
馬場崎右衛門
石田与兵衛

同十六日早岐方引取、同十九日直ニ平戸へ罷越同廿一日罷帰

一、寛政八辰正月六日ヨリ大手原ニ出張、左の通リ

山口野左衛門殿
大佐々 石田与兵衛
小 吉永斧左衛門
平組
出口要蔵
才料中

木寺紋右衛門殿
大 馬場崎右衛門
川下 同
小 郡治右衛門
中野忠右衛門

一、同九日、御普請初メ、杭打積等差出候事、追々土肥土手

(23頁)

請負ニ相願候ニ付、口々相渡

一、同九日夜方雪降、同十日同十一日久方の大雪、寒気つよく

諸木寒痛ニ而かれ申候

一、同年四月六日、潮留メ不残請負ニ而潮止、無滞留リ

御当職手付

長村内蔵助殿
御越
山口野左衛門殿
普請奉行出張
井樋普請ニ而
両組方式拾人程

早岐押

原半平殿
大小頭
小頭
吉永斧左衛門
浜屋
庄兵衛下り
才料中

役人老州

一、御役所遠崎ニ新出来、許斐衛七殿下代老人

御役所ニ而内蔵助殿方御酒茶碗ニ而被仰付組中ニも

被仰付宿ニ而為給へ、石工ニも備物御酒被仰付候

五月廿三日引取、又々出勤、夫仕并諸色遣用帳面等取調、役人衆引合相濟、六月廿八日引取申候

一、御試塩浜開立、庄兵衛引請出来仕、三田尻方浜子六人

連下リ、六月廿六日、浜持初致候、未年迄拾貳町出来候由

右塩浜、寛政十二^甲年、田平高橋伊平、早岐福田平助^ニ

御運上^ニ而御渡し被成候由

△一、辰八月近藤郡太夫殿御隠居^ニ付御組被指上、御道具

御屋ぐら^ニ相納、森宇太夫殿仮支配

△二、同日吉村市郎左衛門殿^江被成御預、同九日御引渡^ニ直詰

(24頁)

△一、寛政午十月七日吉村市郎左衛門殿、新組被成御預、普請

組／高橋市左衛門殿被成御預、与平忌中自分^ニ申来、同十

日平戸へ／渡海、同十四日御組引渡、御道具御屋ぐら^ニ相

納

一、十一月五日、御道具御引入

△一、享和三亥二月五日高橋市左衛門殿、新組被成御預普請組

酒井弥右衛門殿^ニ被成御預候、同十二日御組引渡、拙者小

頭有助／善右衛門、甚右衛門、平勇平、勇助メ相濟、新御頭

^ニ而御土器吸物三ツ／本膳出、夜入四ツ頃引取

一、文化二丑正月十一日、酒井弥右衛門殿新組被成御預、普請

組／同日本沢甚兵衛殿^ニ被成御預候、二月八日御組引入

△一、文化三寅八月十四日、本沢甚兵衛殿新組被成御預、普請

組／成田紋左衛門殿^ニ被成御預、九月五日御引入

△一、文化六巳五月十六日、成田紋左衛門殿御用^ニ而御先手同前

組／被成御預、御普請組於長崎^ニ宗像平次左衛門殿被成御

預候／留守中^ニ付、鮎川庄吉殿御仮支配、同年十二月廿五

日御引渡／前日御道具引入

(25頁)

一、寛政八辰十二月七日、大備御旗本御備在リ

一、同十二月十五日、御三家御備、一番備松浦典膳殿

士組足輕二組、与力・御長柄御旗、二番松浦縫殿殿

右同断、三番松浦内膳殿右同断

一、佐々御普請組頭吉村市郎左衛門殿・大小頭石田与兵衛・小

頭／大瀬甚右衛門・吉永斧左衛門^三・石田儀兵衛・真藤有助

組中相揃／兼右衛門老人病氣不参、松浦縫殿御備^ニ付

一、同十四日昼八ツ時、御城内^ニ繰込、仕切御門外^ニ小屋懸リ諸

組々／小屋^ニ入、夜九ツ時飯事相仕廻、八ツ時将束(装束)

致、具足甲着／七ツ時御馬屋馬場^ニ相揃、同十五日明六ツヨリ

繰出シ先備方新馬場／相備、五ツ時相濟、御家老初御侍中足

輕迄御庭^ニ而御土器／被仰付頂戴、五ツ半頃御頭^ニ参リ、御酒

吸物出^テ給へ旅宿^ニ／引取、同十七日引取、小宿^ニ老人前三

分宛宿払、上^方／被仰付、組中臨時扶持米老升宛被仰付候、

備立の次第付紙の通り^{《341》}参照

一、寛政九巳十月頃方赤崎地井桶老艘老尺ほど岩伐広メ

午二月十七日洪水ニ而仮土肥打切り、同年四月相済

一、志方新田中樋、午二月、見分相済

(26頁)

一、寛政十二申四月十八日、高橋市左衛門殿方御状相達候処、麻

上下用意ノ罷越候様申来、同十九日渡海、直ニ御請ニ罷出候、

明廿日四ツ時上下ノ着用罷出候様との義ニ付、同廿日市左衛

門殿御宅ニ罷出候処ノ御徒士組被仰付、石田与兵衛引入候ニ

付、跡役大小頭被仰付候旨ノ被仰渡御請申上候、直ニ御当職

松浦典膳殿ニ被召連、夫よりノ御年寄衆、御用人御奉行、大

目付、先頭方、勘定役都合ノ三十三ヶ所御礼廻相仕廻、御頭

市左衛門殿樽肴百疋、市郎左衛門殿樽肴ノ民次郎殿ニ樽肴、

辰之助殿肴一折何も相仕廻、同廿二日引取

一、同廿八日、横田直右衛門、石田形右衛門召連、同廿九日、

直右衛門、小頭ノ形右衛門本組被仰付候

一、同年六月大新田捨石操直シ、段平相願追々廻リ

一、大井樋橋石痛、高嶋牧ニ而割出漕廻シ申候、七月十日段平出

船

一、六月廿二日、組勘定ニ船方罷越候節、代番御目見願ニ付召

連

一、弁左衛門倅

勇平倅

卯之助養子其後不縁

志方常蔵又三人

一、小鰯渚本土肥羽口乱候ニ付、十月廿三日ヨリ取懸、川尻

(28頁)

願の通、代番被仰付候

一、同年、いわし渚老斗式升蒔ほど打開、唐ほし植付

一、主水様、七月八日御逝去ニ付、鳴物音曲、御城下二七日、普請

作事一七日、在方一七日ニ、五日申来候

(27頁)

一、申六月、志方常平所、新田関板願済式拾式枚取出し

追々遣

一、同年九月、いわし渚押廻シ杭打申候

一、同年十月五日、浦永喜右衛門相見得申候処、大新田外潟、屋

敷ノ塩浜願の通相済来候由、願書控帳ニ書留メ有

一、作事講存立相談有之、申ノ十一月十九日夜、久蔵宅ニ

出会申談候人数左の通、茅五拾手ニ羽繩二形一日加勢

右不足致候節、丁銭弍百文宛指出可申事、相極候

⑤ 谷蔵 兵蔵 継右衛門 要蔵 菅右衛門 龍蔵 八之平

④ 斧左衛門 久蔵 弥一左衛門 牧助 里右衛門 条蔵 北次郎

③ 逸平 豊蔵 重右衛門 善右衛門 庄左衛門 北右衛門

② 外シ

①

(28頁)

小石ニ而築立、十一月七日成就メ

一、申十一月二日唐津医王寺ニ相越わけハ、雪之相越滞留

致シ清心寺方難渋被申候ニ付、相越面談致候処、一昨朔日ヨ

リノ末寺心月寺鑑主ニ行、彼ノ寺ニ而面談致候事

一、殿様江戸長崎御通行の節、御本陣并御通筋立番

股引羽織ニ而御組差出し候事、御先払申来候節ハ半坂方

山ノ田壱里塚迄、是又、股引羽織、かむり笠ニ而罷出候事

御門番申来候節ハ羽織はかまニ而相勤申候事、以後

右の通り相心得可申事

一、寛政十三酉正月元日登城、例の通御札相仕廻

一、同年正月廿二日、浦永喜右衛門願瀉見分、立合人数

代官山口民左衛門・庄屋松田長左衛門・浜使市郎兵衛・年寄

役ノ近藤庄左衛門・田嶋孫次郎・肝煎勇右衛門・重右衛門相

極メ

一、同年七月十二日、中田万之丞殿塩土肥見分ニ而被相渡候

書留、大新田捨石、長百弍拾間、本土肥羽口方横壱丈

一、同所横土肥の内、長六拾間塩置所小屋床願ニ付

(29頁)

御免被成候、塩浜土肥築留方南拾間程前迄、外ニ書付

受取置、庄屋ニも同様書付相渡居候由、先役与平殿方

申継ニ書留置候事

一、同年酉正月廿七日夜、津元蔵錠前ねち切、米拾俵程

盗取候由、郷中吟味有之候得共、一向相知不申候

一、同年二月廿日方長浜堤重揚取懸、裏羽石ニ而壱間ほど

土肥ころばし、御普請組百五拾人、村夫弍百人、四月十八日

成就

一、同年三月、年号代、享和元ト成る、就右寛政十二迄

一、酉三月十六日ヨリ半蔵屋敷畑開取懸リ、田方壱斗蒔ニ出来

本田方三升蒔ニ高三斗三合、其戌年大新田増高の時

高六斗六合相成申候

御清帳写書留左の通

市瀬免宮ノまへ半蔵屋敷今開添壱斗蒔ほど

一、田方三畝壱分 高六斗六合 畝町 三枚

同免中えご

一、同式拾四歩 高壱斗二升三合 同 五枚

一、同壱反 高壱石五斗弍升八合

一、同壱反式拾四歩 高壱石六斗五升壱合

羽須免宮ノ郷

一、同壱畝拾壱歩 高弍斗七升五合 前畑開 宮ニ而一枚

(30頁)

一、同式畝式拾歩 高四斗 畑開子年御高請

一、同四畝 高六斗

同所長浜

一、同八畝七分 高老石八斗老合 二枚

同所

一、同七分 高五斗四石 一枚

一、同 高老石式斗

羽須和老斗蒔

一、同 文化六^巳二月十二日 弁右衛門殿

相談の上取崩、手作

一、田方八畝式拾四歩 高八斗八升、

但、畑方六畝十二歩^ニ田方^ニ成、畑高引、文化四卯九月十日

高五斗引

御竿入御奉行帳元、手代先^ニ有^ル

享和元辛酉三月書留、御組渡御預有御道具左の通

一、老兩御鉄炮 式拾挺 一、猩々緋御鉄炮袋 式拾

一、草袋 式拾 一、胴乱 式拾

一、口角 式拾 一、竹火縄 式拾形

一、木綿火縄 式拾方 一、鑄形 式膳

一、鑄鍋 老ツ 一、玉箱 老荷

一、陣弁当 老荷 一、陣山刀 拾挺

(31頁)

但三十人前陣鍋共 一、陣刈鎌 拾具

一、御鉄炮箱 四ツ 一、櫃 老ツ

一、三ツ星木綿羽織 式拾六 一、股引 式拾六

一、脚半 式拾六 一、具足 式拾五領

一、指物絹 式拾五人分 ^但兜籠手下着上帯共

メ

右者佐々御普請組被成 御預候^ニ付、右の品々慥預置申候以上

年 号 月 日 御頭御印形

御武具方 御役頭当

一、小頭羽折 四ツ 一、足輕かんばん 式拾 一、三尺手拭廿筋

一、櫃 老ツ 一、手貫廿六 出来

メ四品 組用意之品、正月三日御備之節着用の品

丙春

一、鰯渕荒地田方六升蒔ほと打開

前方両御普請組願書扣見出候^ニ付、留置候

奉願口上覚

一、両御普請組人高廿五人の内、四人小頭・平組廿一人^ニ御座候／諸御組ハ小頭四人・御弓五人・平組廿人^ニ御座候、御

鉄炮廿挺

(32頁)

御渡被置候、御普請組の儀ハ平組廿耆人^{ニ而}御座候、内耆人
 御外^シ被成、右耆人の切米扶持方^{ニ而}御弓五人御取立
 被下置候ハ、難有仕合奉存候、右御外^シ被成耆人年中
 式百四十日本役式拾人^{ニ而}相定^ル本役の上、耆人前^{ニ一ヶ月}
 一日宛増勤仕、直^ニ勘定人^ハ払の節御引被下候ノ様
 奉願候、宜敷被仰達可被下候、以上

明和九年十月

五人組頭中 判

小頭四人殿

右奉願候通御宛行相増候義^{ニ而ハ}無御座、本役指支^{ニも}
 相成不申、御組中殊の外きおい^ニ相成候義御座候間
 何卒願の通相叶候様、宜敷被仰達可被下候、以上

小頭四人 判

大小頭

吉永斧左衛門 殿

右願の趣吟味仕相違無御座候、新願の義^{至而}
 恐多願ケ間敷も可被思召上奉存候得共、組中

きおい^{ニも}相成候願筋の義、殊^ニ年中相定^ル本役

(33頁)

誠情(精^カ)仕相勤候上、耆人前増勤の義相願、御普請方
 何の差支も無御座候間、御了簡の上宜敷被仰談
 可被下候以上

吉永斧左衛門

御頭

太田久左衛門様

一、切米四石

内三斗六升三合七勺 三步上ケ米引

残

三石六斗三升六合三勺 受納前

高^ニメ拾耆石耆升九勺

一、米式石三斗耆合

但御扶持方年中三百五十四日^{ニ当ル}、一日

六合五夕定扶持当^ル米

一、同六斗

但年中相定^ル本役、式百四十日^ニ当昼扶持方

一日式合五勺^{ニ当ル}米

右^メ式石九斗耆合

高^ニメ八石耆斗五升四合五勺 四五一五

合捨

(34頁)

一、小佐々懸岳木場堤洩留御普請被仰付、七月五日取懸十一月十九日／成就引取、洩留土肥

一、御組六百八人、村夫八百八拾人、職人賃諸色代、銀十四匁五分

一、坂口重右衛門 家内六人 内式人男 同四人女 酉八月廿三日内絵踏願

濟

一、白石忠右衛門 家内五人 内式人男 同三人女 御請平戸ニ召連

御頭高橋市左衛門殿御代

一、横田龍藏と中富継母おかし殿山本右衛門助妹、十一月朔

日夜兩人連／出奔致候由、拙者義ハ江迎瀉見分ニ相越居不

申候、早速方々尋人立／候得共、行方不相知由、其後兵藏

殿・右伝治兩人唐津ニ差立候処、／山本心月寺雪之方ニ同

五日夜参申候由、留置候得共、帰不申段兩人共申候故、致

方なく兵藏・右伝次罷帰、其後要藏・崎大夫・／重八・太

七・義八・右衛門助殿方々老人、都合六人差立、同十五日

之／連帰、おかし殿直ニ白岩ニ引取被申候、龍藏病氣申達

御組御暇奉願候処、御隙被下候、御頭高橋市左衛門殿御

代尚又申来候者／未年若の者ニ御座候ニ付、得と養生も可

致、且又外ニ何そわけ共ハ／無之哉と御尋御座候ニ付、何

分快気の体相見へ不申内々不行跡／筋も御座候ニ付、願の

通り御暇被下置候得者、親ノ方ニ取計方も／可有御座趣

申上候処、左様御座候ハ、御暇可被下との義ニ而、同十八

日／平戸引取、おかし殿同十七日夜病死被致由申来候、

龍藏／管右衛門殿方典膳様ニ相願、生月ニ願遠島、同廿六

日ニ参り申候、／翌々戌年九月帰参被致候

(34、1頁)

●金子善右衛門

●森 兼助

●志方卯之助 △大瀬甚右衛門

●出口要造

●出口継右衛門

●石井善藏

●岩崎貞助 △石田儀平

●久家林助

●横田甚助

頭 □吉村市郎左衛門殿 ●小者

◎甲立 ◎若党 ◎口附

●山本牧助 渋谷弁左衛門

●石田兼右衛

●坂口重右衛門 △真藤有助

- 坂口龍助
- 松村四郎右衛門

●吉良勇平

●石井瀧右衛門

●横田直右衛門 △吉永斧左衛門

●白石忠右衛門

●真藤勇平

大小頭

□石田与兵衛

(35頁)

- 一、東光寺三ヶ年以前より大般若御経存立、世話人木寺紋右衛門殿・鴨川／要七殿・久家竹哉殿・吉永斧左衛門・川内野善右衛門・当懸中_{ニ而}寄進御座／候様被相頼、三ヶ年_{ニ而}取立、酉六月中旬大岩和尚上京出船被致、十月末／下り_{ニ而}大般若御経御下、十一月廿六日御紐とき、瑞雲寺近寺の諸僧懸中荒増被呼申候
- 一、真藤左渡八、十二月六日本組_{ニ而}被仰付候、龍藏跡御頭高橋市左衛門殿御代

享和二戌年

- 一、江迎海道新橋御普請被仰付、二月八日取懸、拙者義八昨

日土肥伯母様／御死去朦中不参、同十六日迄忌被指免、同十七日_{ニ而}出勤

一、御組人高三百三拾五人 一、村夫百廿人 八合夫

一、点役夫百三人_レ五百五拾八人_{ニ而}成就致候

一、天満宮九百年の御年祭の由_{ニ而}、崎方天神宮・うつほ岳天神宮／二月廿三日方同二十五日迄、作り物色々おもい付

ケ_{ニ而}賑合申候

一、堀口大神宮三月廿五日右同断

(36頁)

- 一、御厨立尾川田構石垣水返御普請、両御普請組被仰付、四月十七日方取懸五月十四日_{ニ而}引取、去ル十四日洪水_{ニ而}水はね先少々／打崩シ、七月廿一日_{ニ而}又々一組方拾人宛差越成就致候
- 一、人高千三拾六人両組_{ニ而}、内六十六人小頭
- 一、大新田免中增高被仰付、米高百五俵、十四ヶ村御あかい_{ニ而}相成候由
- 一、屋敷上下畑開、古田二枚二升蒔ほと、尤耆枚鴨右衛門_{ニ而}うり渡し_{ニ而}付、／はへノ崎一枚田_{ニ而}地代致委ク左_{ニ而}印シ置候、畑開都合六升蒔ほと_{ニ而}相成、／文化元子三月新地改_{ニ而}付御普請、田方式畝式拾歩_{ニ而}高／四斗畑高 引

屋敷川ノ下

- 一、田方耆枚 立竿八間半_{ニ而} 横竿並シ四間 坪_{ニ而}三拾四坪 鴨右衛門作所

はへノ崎

一、田方老枚 立竿拾老間半ニ
横道際式間半

同下 四間並し三間二合五勺

斧左衛門作所

坪メ 三拾七坪三合七勺五才

右地代及相談、六三郎立合則六三郎竿取ニ而代扣置

地面出入御座候得共、差引なく替置申候

一、戌六月三日朝方大雨降、大新田一面湛、土肥廻口石通行懸、

とん田土橋ノ先渡不相成、口石ニ而少々延引、かいら川土肥

惣こし宮山際迄湛、ノ赤崎方土肥別条無之、甚右衛門・有

助・直右衛門・勇平・重左衛門・継右衛門・用蔵・

佐渡八、メ水廻り長屋ニ出合

(37頁)

一、拙者初御組中家内相改、人別帳仕立年名附差出候様申来、

一々相調へ六月六日書出申候、年々二月五日宗門方ニ引合ニ

出候事

一、戌六月廿日宮内殿本家ニ引移被申候、中書八月方平戸頭取ニ

御参り申候

一、吉永善八拙者弟分ニ而御手廻ニ被召出候、御頭高橋市左衛門殿

ニ相願、善人もノ小樽肴上ケ罷出候

一、三社宮ニ而御願成就相続有、見物諸人多ク八月廿七日

一、戌七月組勘定ニ罷越候節、御頭高橋市左衛門殿被仰渡候趣、

此度ノ御当職松 典膳殿方被仰出候趣、御奉行園田和平殿

方申来候ノ趣、佐々四ヶ村方郷足輕無御座候ニ付、願出候処、

佐々村ニ者御普請組ノ御座候ニ付、右郷方請持相勤申候様被

仰出候趣、御申渡畏候趣ノ御請申上候、加役の義ニ付大切奉

存候間、御書付御渡被下置候様ノ申達候処、不及夫ニ者、在

役代官方方申懸合候節差出候とのニ付ノ右の段御請申上、早

東運小頭中ニ申渡置候事

一、七月廿日木場村百姓時蔵と申者、中里村ニ而不屈筋御座候ニ

付ノ平戸ニ連越候様申来候由ニ付、御組兩人差出候様、代官

山口民左衛門殿方申来候ニ付、御組兩人真藤勇助・出口要蔵

指越候

一、八月朔日大洪水ニ而大新田一面ニ湛、榎渡瀬方上土肥惣こし、

かいら川ノ土肥打切所々少々宛水捨御座候ニ付、御勘定役衆

ニ申達候

一、八月十五日白石忠右衛門忰量蔵・石井瀧右衛門忰源蔵・松

村四郎右衛門忰ノ五郎治、メ三人代番見習願ニ付、致承知拙

宅ニ甚右衛門召連被相見候

(38頁)

代番申渡同年十二月三日、御頭市左衛門殿ニ御目見相連申候

樽肴ノ差上申候

一、大新田井樋番大浦弥太六、親以来数十年魂丹ニ相勤申候者ニ

付、／去年時分方代官衆庄屋ニ相頼、内踏願差出呉被申候様

申置候処、／十月二十二日相済来候由、早束平戸へ被召連候

由、同廿四日拙宅ニも一礼／相見へ申候、其後拙者も代官衆

庄屋ニも礼ニ参り

一、十月二十九日夜、於江戸日高角左衛門殿を柏原次郎九郎殿

切ころし／自身直ニしが被致候由御便到来、次郎九郎殿屋

敷御取揚、角左衛門殿／子息相定ル忌服請被申候様被仰付

候との事ニ御座候

一、石田儀兵衛及老年難相勤り御暇相願候ニ付、引格御徒士組

願書相認、十一月十五日差出置候処、十二月二十日夜相済候

趣申来、同／廿二日召連平戸へ罷越候、同廿二日被仰渡候、

御頭高橋市左衛門殿御代

(39頁)

在々御触書写

一、是迄踏絵御免の格式申付候者共、猶又当人よりも

踏絵御免の義、宗門方江相願来候得共、以来は右願指出ニ

不及候、其段へ宗門方江も相達置候、右の趣諸役頭

其外向々可被申達候以上

十月

松浦典膳

勘定奉行中

一、同廿二日跡小頭役金子善右衛門ニ被仰付候

一、同日石田形八直ニ本組被仰付、三人共一同御樽肴兩人ハ包物

添／右兩人ハ川下組頭岡平左衛門殿ニ先頭吉村市郎左衛門

殿ニ召連申候

一、当村百姓市郎左衛門悴熊次郎、庄八丑盗逃、福井村ニ追捨

行方不知／其後一類中ハ相尋申候処、早岐筋ニ尋出シ連帰、

十二月廿八日平戸へ連越候様申来候由ニ、警固ニ出口継右

衛門・真藤佐渡八／指越、直ニろふニ入候由、亥冬老州ニ遠

島被仰付候由

(40頁)

享和三亥年

一、二月五日高橋市左衛門殿方御尊書相達申候処、昨日御用ニ

登／城致候処、拙者義新組被成御預難有奉存候、是迄御預

の御普請組／酒井弥右衛門殿ニ被成御預候趣申来候ニ付、同

六日早々渡海、両所ニ罷出相伺候処／来ル十二日御組引渡の

趣被仰聞、直ニ引取

一、同八日祖々父四十九年御かゝ様廿五年志シ致候

一、同十一日平戸行、斧左衛門・甚右衛門、十日ハ善右衛門・有

助・勇平・勇助^レ六人、同十二日／御引渡、新御頭弥左衛門殿^{ニ而}ハ、御土器・吸物三ツ・本膳被仰付夜入四ツ頃引取

一、三社宮社代江戸表伺濟^{ニ而}相成候由^{ニ而}、在方祠官方^{江も}／御書

付等も相渡候由^{ニ付}、右宮山伐払^{ニ而}相成候^{而者}拙者屋敷／風雨強住居相成不申候^{ニ付}、風と存立屋敷致、尤家根替／存立居候^{ニ付}、無益^{ニ而}相成候筋も有之候^{ニ付}、旁以不得止事打立、

併手当無之候ゆへ去冬願書等差出申候得共、存寄通相濟

不申存立候義、今更致方無御座常平所^方銀老貫目拝借、

但月一步三利付^{ニ而}、御郡代浦新八殿・代官山口民左衛門殿・

庄や松田長左衛門／加判^{ニ而}銀之義、光明寺新田所納銀^方

連々受置申候

一、屋敷牧崎^{ニ而}久藏持内及相談、大麦式斗蒔ほと山少し添、高

六斗／代銀四百目^{ニ而}宮内殿相頼所望致候

一、家角左衛門殿古家所望、代三百目ほと、式百目直払、とき下

シ廻シ迄／拾老貫文^{ニ而}庄八^{ニ而}相渡し

(41頁)

二月廿四日ニ棕上ケ、末頃迄屋根相濟、三月廿七日引直、四月三日^ニ講經杯相頼、水蒔書一類中、近辺中、久藏も呼盃など致し候

一、於唐津雪之心月寺鑑主致居候処、医王寺御世話^{ニ而}当夏城下長徳寺^{ニ而}立職致候由、入湯相願四月十五日心月寺迄参り、

有助・牧助入湯／存立同道、十六日・七日・八日長徳寺^{ニ而}滞留、十八日夕方医王寺^{ニ而}行一宿、同十九日／武雄^{ニ而}参り入湯、

同廿四日^{ニ而}帰宅致候

一、去冬^方吉田村市ノ原^江新堤築立被仰付、両組^方築立候様被仰付候、／戌十二月朔日取懸り同十五日引取、亥閏正月廿九日^方取懸り、米百六拾俵ほと

一、子年又々米百俵分村夫召仕申候

一、五月四日洪水^{ニ而}川下大川^{ニ而}拔所致候^而、川下組計^{ニ而}ハ手届不

申趣^{ニ而}、／此元御組も差越候様御勘定役衆^方申来指出候事、

五月廿六日^方九月十五日迄遣し候人高

一、八月廿六日小値賀御新田井樋御普請被仰付、石井瀧右衛門・

山本牧助兩人差越、十月十四日迄相仕廻引取、乗船爰元着

直^{ニ而}相仕廻引取候趣申達候

一、九月五日收納屋作事、建蔵三日、仁平次二日半雇申候

一、亥冬、平田堤中ノ堤立樋痛替、職人賃扶持、下夫ふち

釘代初頭小助^{ニ而}相渡申候

一、吉良勇平二男忠次郎、谷蔵殿口入^{ニ而}、田平井上利三郎殿^{ニ而}養

子^{ニ而}相濟／十二月十九日引越、初勇平^{ニ而}被宛行

(42頁)

文化元年

一、正月元日御札相済、同二日打初相仕廻御節被下、酒井弥右衛門殿／初^ニ正月^ニ付、為御祝麻上下御目錄被仰付、難有御札申上引取

一、吉良勇平・山本牧助兩人亥冬方内踏願書差出置候処、二月朔日^ニ相済申候由、同三日兩人召連御請^ニ罷出候、樽肴等差上申候

一、田平御馬廻井上又八殿、弟利三郎殿養子被致候義不承知之趣、兼^ニ兄弟不和の由^ニ、利三郎殿屋敷追立被申候相談御座候得共、利三郎殿承知／不被致、忠次郎義ハ先ッ滞留^ニ勇平方^ニ参り居申候、二月四日夜、又八殿弟三蔵殿／医師道意老・御厨侍衆老人・近辺の百姓兩人あつめ、近辺百姓^ニにセ状拵、利三郎殿^ニ誦貫^ニ遣し置、跡方右人数押懸、外方三蔵、医師鉄炮打懸^ニはなし^ニ／打留、又八殿鐘^ニと^ニめさし被申候由、翌日直^ニ弟利三郎せつかい致候段／被申達候由^ニ御座候処、追々鉄炮殺の風聞有之御呼出シ、兩人ハ寺社／奉行山鹿伊織殿宅^ニ被仰渡、又八殿山鹿甚五左衛門殿御預り、三蔵殿／吉村市郎左衛門殿御預り、侍衆八人宛、足輕八人宛、小頭兩人宛、右何も代合／の由、道意勘定場内かこい、明松焼・状持兩人ハろふ^ニ入、其後兩人ハ／勘定場御門前御長屋^ニかこい出来、勘定場大部屋詰方兩人宛、御組小頭足輕兩人宛番手、其後小値賀庄屋庭^ニかこい出来致、又八・

三蔵兩人彼島^ニ被遣候、丑六月十二日小値賀方御呼取るふ入、同廿三日又八・道意兩人ハろふ屋の口^ニうちくび、三蔵六町引廻シ^ニ薄香越^ニ御仕置被仰付候、一関^ニさらし物^ニ相成候、母ハ小手田庄屋^ニひくに^ニなし、黒島^ニ遠島、御厨侍衆従弟続の由老州長ッ遠島、／明松焼・状持兩人ハ御免被成、出ろふ被仰付候、右の通相済申候／妻子何の御かもいなく段被仰付候由

(43頁)

一、二月二日、市瀬懸江里、金次郎と申者、江迎鎮守大明神宝劔盗取、川筋^ニうり出候由相知レ、召取平戸へ連越申候との義^ニ、警固^ニハ／真藤勇助・石田形右衛門指越、拙者平戸へ罷越居候^ニ致承知候

一、平戸比丘尼橋痛申候、佐々^ニ取出吳候様御郡代衆方申来、光明寺／持内^ニ割出、二月十五日段平^ニ為積

一、中川原土肥庄屋作、石田助左衛門作所栗林拔所、古田井手^ニ年々／少々宛拔込候^ニ付、御高引も御願可申上哉の処、川土肥幅も上下方ハ／間数多様子^ニ相見得申候^ニ付、右土肥壺間通り代地^ニ被仰付候ハ、手／普請^ニ仕、右代地^ニ仕度願御座候処、亥四月^ニ願書差出置、子三月^ニ相済来、三月四日拙者・小頭真藤有助・代官久保三右衛門殿・庄屋松田長左衛門・／石田助左衛門立合見分、助左衛門作所当春直^ニ取懸普

請致度趣、／石垣築立見計組兩人宛差出候様申談置候、助左衛門方参り候様／との義ニ付、同道参り酒など給へ帰

一、三月十八日当村地面御調へ御奉行今浦伴助殿・御郡代浦

新八殿・手代雪浦崎右衛門殿其外志方筋手わけ見分有之、

昼賄仕出候様との事ニ而、安左衛門方ニ打寄候人数左の通り、

新高請候分／斧左衛門 管右衛門 久蔵 小右衛門 藤助

治八 崎大夫 稻右衛門 義之允／藤二郎 有右衛門 林左

衛門 磯右衛門 六左衛門 六三郎 本助 甚太郎 鴨右

衛門／五市左衛門 熊右衛門 布次右衛門 五一兵衛 紋

左衛門 権右衛門 勘兵衛 左左衛門 八百助／安左衛門

作平次 長左衛門 要左衛門 半之允 惣八ノ三拾三人

老人前ニ白米三合宛ニ錢五拾八文宛、酒肴とに物代直払、残

錢貳百五十五文

(44頁)

味噌醬油蒔代、宿礼ニ安左衛門かたニ遣候

一、田方式畝貳拾歩ニ高四斗、畑開ニ付畑高引

一、坂口龍助弟文蔵、子四月十一日夜出奔致候段、内々達承届

候／御領分中及心之、相尋申候様申付置候、方々相尋申候

得共、行方／相知レ不申由ニ付、八月ニ出奔申達候

一、かねノ手外潟塩濱新田井樋巻直シ、内々ニ而相頼被申候ニ付、

瀧右衛門／表ニ者忰代番差出、其外ニ少々加勢ニ而成就致候

一、大瀬甚右衛門娘世知原西山七内殿方縁談願差出候処、願の通り／相済来付送り請込證文送来受取置候

一、金子善右衛門娘、吉田村迎唯平殿方縁組願濟付送り

一、五月十二日夜洪水ニ而大新田一面ニ湛、土肥廻ニ行、榎渡瀬方

上土肥水垣／惣こし、築出方赤崎迄水廻り、小浦酒屋ニ而寄

合給へ帰、拙宅ニ而又々／生酒三升取寄正中(焼酎)貳升、

拙者・有助・直右衛門・勇助・佐渡八・要蔵・管右衛門殿・

久蔵／八人ニ而給へ

一、御部屋様江戸御下り、六月六日夜爰元御泊り、半坂方山ノ田

迄／御先払兩人宛、御門番立番例の通

一、若殿肥前守様御名代御下、同七日爰元御通行田平御泊り、

御先払兩人宛、半坂方山ノ田迄立番四人差出、御宿割河合

平作殿半蔵下役相勤足輕兩人拙宅ニ立寄被申、御酒吸物有合

(45頁)

そふめんなど出候

一、八月十九日入湯御切手相願、石井善蔵同道致出立、唐津

心月寺ニ着一宿、同廿日滞留、同廿一日出立朝六過、築前め

いの浜ニ一宿、同廿二日出立、箱崎八幡宮参詣、産八幡・

宝満山参詣相仕廻、／七ツ過天満宮ニ着参詣、夜市など見物、

廿三日夜明天神宮／御下り拝、明六ツ頃出立、築後善通寺参

り川原山参詣、久留米／護国神・瀬ノ下明神参詣、ちりくニ

一宿、同廿四日早朝八幡宮參詣／五ツ頃出立、佐賀大神宮參詣、うし津^ニ一宿、同廿五日六ツ頃出立／武雄^ニ着、同廿六日七日入湯、同廿八日昼方武雄出立、牧助・真助参り居候
 昨廿七日出立帰、口石権次郎・衛助四人同道早岐^ニ一宿、同廿九日大雨／大北風^ニ難儀致、中里^ニ酒なと給へ、漸々川渡り七ツ頃帰宅

一、子六月廿二日夜平戸ひや水安満岳下屋敷^ニ而、八之平殿嫡子童平殿日宇村福谷勝次殿・鍛冶屋町の者老^人・田助女老^人都合四人変死致、右^ニ付八之平殿七月十二日格禄被召上、御城下／渡海御構、文化三寅十二月渡海被成御免候

一、九月廿九日角左衛門殿・拙者・半蔵^ノ三人連、唐津心月寺^ニ行、／一里程及暮着、^{十月}同朔日滞留、同二日帰り

一、十月十五日夜、市瀬村権十郎・梅之助喧嘩致候由、権十郎相果申候、梅之助綱下^ニ相成、同十七日平戸連越、警固^ニハ山本牧助・宮嶋重左衛門差越、丑夏梅之助老州遠島

(46頁)

文化二年丑年

一、正月元日二日例年の通相仕廻、同三日引取、四日拙宅へ年始

一、宮嶋重左衛門去冬以来病氣御座候^而難相勤、御暇奉願、／願の通被成御免、正月十四日悴兵助本組被仰付候、／酒井弥

右衛門殿御代、同年四月頃重左衛門引格内踏／願差出申候
 処、願の通被仰付、御請召連、本沢甚兵衛殿／御代^ニ成り願濟

一、正月十一日酒井弥右衛門殿御用^ニ而被成御登 城／候処、新組被成御預、御普請組本沢甚兵衛殿^江被成／御預、同十九日甚兵衛殿佐賀御使者御勤被成、御供^ニ／金子善右衛門差越、同廿六日爰元御泊り

一、二月八日御組御引渡、七日^ニ渡海、直^ニ勘定致

一、三月廿五日夜於老州、長崎流人宅^ニ押入、夫婦・養子老^人・下女都合四人差殺、跡^ニ火を懸焼拵、就右段々御吟味／相成り、御頭本沢甚兵衛殿・井上三郎左衛門殿・組目付馬淵八郎左衛門殿・／使役中嶋小左衛門殿御越、六月四日御出船、七月朔日御引取、御頭御咄^ニ

(47頁)

承候得者、役方御馬廻牧山弥六右衛門殿嫡子頭取^ニ而、京都流人／兩人、志原村脇間老^人、四人^ニ而殺シ、弥六右衛門殿嫡子相果申、／流人老^人相果、残兩人と弥六右衛門殿召取平戸^ニ御呼取り／じろふ致候、右兩人卯四月於老州^ニ御仕置被仰付候、弥六右衛門殿／長^ク遠島小値賀島^ニ

一、丑春本屋敷宮前畑開、老斗蒔ほと普請致

一、長浜堤敷樋替 村夫弍百人

職人拾五人

御組百五十人 四月廿七日相仕廻

一、三社大明神御社代当春方御普請取懸、十月晦日御遷座
大神樂有
末社共一同、御郡代久家住兵衛殿・立石伊予殿御越、

代官久保三右衛門殿・庄屋松田長左衛門・一ノセ同吉永儀右
衛門・小佐々同

小佐々 里 上 下 一ノセ

佐々木利助・筆取・石田善左衛門・坂本平蔵・浜野康助。

小佐々 里 口石 古川

筆取千助・初頭幾之丞・松野小助・初頭伝右衛門・

木場 栗林 野寄り 浜使

初頭宋右衛門・初頭紋左衛門・初頭力右衛門・近藤吉右衛

門、／去九月九日御祭礼ヨリ御幸相願濟、年々賑々敷相成

候、／御迁宮祠官請_ニ御座候、尤料銀貳百廿目

一、古社不残_ウり_ニ相成、丁錢八拾貫文久蔵相調へ、／寅春よ

り田開取懸り老反老畝、文化四卯九月御竿入、高石代

卯年_方三ヶ年御免

一、八月廿三日渋谷弁左衛門御暇願濟、忰本三郎直_ニ本組被仰付
候、／直_ニ弁左衛門と改名、親儀平と改名、御頭本沢甚兵衛

殿御代

(48頁)

一、同年夏重右衛門忰久蔵・龍助忰富蔵・貞助養子嶺左衛門_ノ

三人／代番願

一、八月八日肥前深堀の者申候_ニ、鍛冶和佐右衛門と申者参り、

要蔵口入_ニ拙者屋敷内／召置候、平戸鍛冶宇右衛門弟子分

ニ致内談召置候、卯正月／廿五日福嶋参候由申出候処、其

ま_ニ直_ニ深堀_ニ帰、不参候

一、唐津心月寺当夏上京被致候由_ニ付、八月五日内々_ニ鍛冶／和

佐右衛門連参り申候、未帰寺無之_ニ三日滞留、同九日帰宅

一、十月廿三日森兼助組年寄役申渡、小頭有助同道、

樽肴等為持直_ニ開

一、十一月十五日瀧右衛門_ニ男猪之助、卯之助養子内談致引越、

瀧右衛門方被呼行、小佐々参吳候様頼_ミ候得共、紋次殿_方

被呼か_ニ様御出被成候

一、十二月廿九日横田左衛門忰代番願_ニ拙宅_ニ有助召連被参

申渡、寅正月二日御頭甚兵衛殿_ニ御目見、願の通被仰付候

一、十二月廿日新田栄助殿急病_ニ死去被致、直_ニ悔_ニ行

一、十二月廿九日大雨風、早朝平戸出立、四郎右衛門人足雨風_ニ

渡海／無之、与三右衛門と申者方_ニ一宿、人足と兩人酒な

と取給_ベ休

(49頁)

文化三年寅正月元日四ッ頃渡海

一、半蔵方行、荷来盃取、最寄能年始廻り、御頭様_ニ四郎右衛門

と兩人参り、／御祝等被仰付戴引取、同二日打初無滞相濟、同三日引取、四日拙宅

一、同十七日、病氣_ニ元日不参親懸年始参り、同十九日帰り

一、同廿五日、管右衛門殿死去被致候

一、庄屋松田長左衛門勘定場御支配_ニ被仰付、引代り後役坂元猪右衛門参り、／馬指善左衛門鹿町庄屋_ニ御取立、馬指_ニ者平藏、山守八田平方喜右衛門参候

一、真藤勇助・森兼助内踏願指出候得共、諸御組方ハ内踏の者人数も多御座候_ニ付相濟不申趣_ニ而、願書追_ニ而被仰出候筋も御座候趣、／熊沢半右衛門殿方被仰渡候段、御頭甚兵衛殿方被仰聞候

一、当春、宮嶋重左衛門娘いね、大屋浦町人内野市次郎妻_ニ縁談願濟_ニ付、付送り

一、三月四日昼五ッ過方於江戸出火、同五日昼過迄焼払、長三里半／横巷里ほと焼申候由、御屋敷御類焼_ニ而不残焼払、御土蔵二ツ／漸々残候由、三月廿一日御飛脚到来委_ク申来候処、御両殿様奉初御子様方本庄御下屋敷_ニ御移り被遊、御家中初御末々迄本庄_ニ町宿_ニ被仰付候由、久方の大火ト申事_ニ御座候

一、半蔵義、江戸詰被仰付、二月廿五日出船

(50頁)

一、二月二日、坂口龍助死去致、三月廿二日迄悴富蔵忌服致、同廿七日／組稽古_ニ付平戸へ罷越候_ニ付、召連申候

同廿八日稽古後富蔵義本組被仰付候、同廿九日引取、船方風雨_ニ而／矢岳_ニ泊り、四月朔日帰宅、同二日拙宅_ニ有助同道、富蔵一礼_ニ相見得樽肴／直_ニ開

一、三月十九日内分_ニ而源蔵連、心月寺参り、廿日・廿一日滞留、同廿二日帰／地藏尊供養_ニ而賑合

一、四月十五日、庄屋_ニ罷出候様代官衆方廻札参り罷出候処、御郡代／久家住兵衛殿御越、侍中寺社給人町人御呼出被仰聞候ハ／当春江戸屋敷御類焼_ニ付、御領分中一礼(統力)御用銀被仰付／候の由被仰聞候_ニ付、銀拾匁奉差上候、十月九日相納申候

一、当年拙者入厄_ニ付、六月朔日講經宮内殿_ニ相頼、中書殿夫婦・口石おば様・善八参り合、要吉殿申遣候得共、指支_ニ而不被参、／隣要吉・和佐右衛門心悦神酒立致し候

一、去丑夏以来早魃_ニ而、本屋敷田方損毛、去秋ハ半毛位_ニ而御座候処、当秋去年方引落_シ申候、兩年の早魃_ニ而殊の外難儀_ニ相成申候

一、六月廿日勘定役衆方御状相達候処、羽須和免堤羽口拔崩レ申候_ニ付、御普請_ニ被仰付候、八月十五日方取懸、九月六日相仕廻成就の上、又々

(51頁)

本の通り抜、卯春又々成就、村夫六百五十人ほと一組式百人ほと

一、中書不行跡ニ付、支頭^(与之)ニ内々相伺申候処、围杯出来入置候様内指図ノ請、納戸ニ急ニ出来、七月二日親類中打寄則見届、

坂元但馬ノ被指越見届罷歸被申候、

右中書卯四月廿四日夜方相見得不申候処、行方不知出奔致

五月廿三日出奔達、宮内殿方被致候、尤三社宮御宝劔二本・御判物ノ入箱共無之段申達の由、宮内殿三月十一日出船、上京被致候^而ノ五月十九日帰宅ニ御座候、拙者従弟の続^キニ付本殿入り指扣申達候処、ノ御承知被成被指外候段、同廿八日申来、同廿九日御礼ニ平戸へ罷越候、ノ上下ニ罷出候、御頭成田紋左衛門殿ノ右中書辰七月廿八日唐津方立帰、十一月ニ立帰達有之候ニ付、ノ島送も何卒御容赦相成候様清心寺ニ相頼申候

一、先祖墓所下ニ屋敷内古墓四ツ、久蔵屋敷方三ツ直候、ノ兼^而存立念仏供養出来、牧崎打寄供養造立致候、ノ夕方小僧申談回向相頼申候、御布施百文茶付出候、皆々ノ寄合杯致候一、劔術新入、直助・兵助・直治・直平・要吉・判之助・京助・条治ノ^ル八人、七月十七日夜善右衛門殿ニ召連古参管右衛門・斧左衛門・継右衛門ノ谷蔵・勇助・佐戸八、新入方樽

肴、古老そふめん為持遣候

一、段平相願六月十六日廻り、八月十一日爰元出船、同十四日迄土肥前井手泷築石ノ捨石足、内々^ニ而^三三社宮下ノ段石割漕廻し

(52頁)

一、小浦古浜内^ニ而^三以前光明寺塩浜築立の砌、内浜方ノ及内談井樋替居申候処、此十ヶ年前ヶ本の通岩伐り^ニ井樋立申候ニ付、内^ニ而^三無用の場^ニ相成、大元右^ニ而^三立候時ノ孫左衛門持内浜溝相用、土肥の内懸り相立居申候^ニ而^三付、ノ浜主中ニ相障り候場所^ニ而^三者無之、先役石田与平殿方ノ申継も御座候ニ付、孫次郎方^ル右場所埋揚申度ノ内々被相咄候ニ付、何の指支も相成申間敷候間、埋揚ノ被置候ハ、追^而ハ田畑^ニも相成申間敷もの^ニも無之、ノ左候得者末々^ニ而^三到^而ハ少々^ニ而^三も御高請御為^ニも相成りノ可申候ニ付、埋揚候様内々指図致置候処、内浜作人中^方ノ見分致呉候様申来候ニ付罷越候処、代官、庄屋指支ノ兩筆取兩人浦役人中作人立合見分致候処、何故指支相成申候と申所一向不相分、就右申達、ノ当秋免方時分御見分請可然申置引取申候、然^ル処ノ其後浜使近藤吉右衛門段々相見得、作人中得と申談ノ何も得心仕、孫次郎面談の上指支無御座候趣、和談ノ仕候^ニ付、何卒内濟致呉候様相歎被申候ニ付、其通りノ致置候事、追^而及難渋不申候様、

呉々も申置候

- 一、八月十四日本沢甚兵衛殿御用御登 城被成候処、新組／被成御預、御普請組成田紋左衛門殿被成御預候、同十七日

(53頁)

渡海、同十八日虫干、同十九日御道具御やくら_ニ相納、同二十日引取

- 一、九月五日御組引渡、御道具同日御引入

- 一、十一月九日有助養子要吉・牧助忰直治・勇助忰直平、

代番願_ニ拙宅_ニ忠左衛門召連相見得、樽肴為持直_ニ開

- 一、十一月廿二日、量蔵・源蔵・五郎治・久蔵御目見_ニ召連、拙

者忰／京助一同差出、鯛一折、四人^ハ樽肴

- 一、唐津心月寺十一月六日被参滞留、十二月三日帰候、上京後

初_ニ

- 一、中倉要吉殿弟甚吉・喜作兩人、当春宗門方^方実子_ニ有之哉と

付札御座候_ニ付、及内談置候処、右の通家内_ニ召置候様相濟

申候_ニ付、／十二月三日要吉殿差支_ニ甚吉・喜作同道平戸

行、奉行衆三人／百疋宛、大平殿・茂八殿百疋分指立置、肴

代一包宛谷次右衛門殿老人と／見習三人八百文宛御札相仕

廻申候、追_ニ拙者方も樽肴一包拾弍匁持参

- 一、十二月十一日佐渡八詰代帰、持参致候御書付左の通り

- 一、殿様先月十三日御隠居御願の義、御用番

松平伊豆守様_江被指出候処、同十八日

殿様為御名代秋月山城守様

若殿様御同道_ニ御登 城被成候処 御願の通り

御隠居

(54頁)

若殿様_江御家督被蒙仰難有 思召候、就右以来

殿様 御隠居様と奉称候様被仰付越候

但支配有之面々_江者可申聞候

十二月十二日小頭組中長屋呼出右の趣申渡候、同十三日平

戸へ罷越、／同十四日上下_ニ御祝詞_ニ罷出、同十五日引取、

被仰出候御書付写／左の通り

殿様御意

今般御家督被蒙 仰難有思食候

公边御勤向勿論 御家御相続御政務等御取計

被成候、就者

御隠居様御代の通、何も不相替御奉公專要

被 思召候、御年若_ニも被成御座候得者、別_ニ

心懸相勤候様可申聞旨

御意_ニ御座候

但支配有之面々_ニ者右の趣可申聞候

御隠居様御意

此度御願の通り 御隠居

若殿様^江御家督被蒙仰御大慶御安堵

思召候、是迄何も貞実深切^ニ相勤候段、御満悦被

思召候

(54、1)

此写相達候

殿様御隠居御願の儀

先日十三日御用番松平

伊豆守様^江被指出候処

同十八日被為 召

殿様為御名代秋月山城守様

若殿様御同道

御登

城被成候処、御願の通御隠居

若殿様^江御家督無御相違

被蒙

仰難有 思召候、此段申聞

候様被

仰付越候、就右以来

殿様

御隠居様と奉称候様被

仰出候

但支配有之面々^者右の趣

可申聞候以上

十二月

(表書)

仰渡御書附写

(55頁)

殿様^江御政務被為讓候得^者、不相替出精御奉公

仕候様 思召候、殊更御年若^ニも被成御座候へハ

御隠居様御心労も薄ク、御休足も被被遊候様、

精々心懸可相勤旨申聞候様被 仰出候

但支配有之の面々^{江者}右の趣可被申聞候

十二月七日

△小頭 成田紋左衛門殿備立小面

●

●

● 四足懸り又四足押出し竿^ニ成

●

● 小頭

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

▲竿_ニ成上ル

見得

一、正月十四日、元日残親懸御年始平戸行、同十六日帰リ

一、同十七日直ニ平戸罷越、同十八日朝五ツ半頃、善次兵衛殿参り被申候／江戸御屋敷御類焼ニ付、御宛行四歩七厘差上ケ申候旨申来候ニ付、／両組申談一同ニ差上申候、治右衛門殿病氣ニ付、善次兵衛殿相見得申談候／書上申候左の通り

奉願口上覚

一、御上御類焼ニ付、歩米四歩七厘当卯年一ケ年分差上申度

奉存候処、就右、先達_而御用銀等も差上置申候、依之何卒当一ケ年歩米／卯辰兩年ニ御引取被下置候ハ、難有奉存候、此段宜敷被／仰達可被下候

卯正月十八日

両御普請組

大小頭

中

小頭

当なし

一、米四拾四俵式斗三升三合七勺 両御頭様方別紙御書付被相添被指出候由

一、米四拾四俵式斗三升三合七勺

但相神浦御普請組小頭共人数廿五人御宛行切米

百石五斗ニ当ル歩米四歩七厘の米高

一、米四拾四俵式斗三升三合七勺

(56頁)

文化四丁卯正月元日、五ツ頃少々雨降

一、元日二日例年の通相仕廻、同三日引取、同四日拙宅ニ年始相

但佐々御普請組右同断

(57頁)

米八拾九俵斗四升七合四勺 大小頭御宛行

一、米式俵式斗老升四合六勺

但相神浦御普請組小頭切米六石切米六石ニ当、四歩

七厘の米高

一、米式俵式斗老升四合六勺

但佐々御普請組大小頭 右同断

米五俵斗九合式勺

合米九拾四俵式斗五升六合六勺

右者去春江戸御屋敷御類焼ニ付、両御普請組御宛行切米

式百拾三石ニ当ル歩米四歩七厘、当一ヶ年分乍恐奉指上候以上

卯正月十八日

石井又七

成田紋左衛門

組

右折紙ニ相認メ被指上候由被仰聞候、御家中初一統

差上申候事

右上米兩年相願申候ニ付、御先手組杯承合、同十八日十九日

滞留／同廿日ニ引取申候

一、三月九日大瀬忠左衛門御用ニ召連罷出候処、引格御徒士組被仰付候、去十一月願書差出置申候、成田紋左衛門殿御代御

礼廻り／御当職松 典膳殿、松 蔵人殿ニ者御頭被召連、瀧

弥一右衛門殿ニハ／拙者同道石井又七殿ニ同道、夫方御頭ニ

樽肴御祝儀金百疋一包／為持御礼ニ同道致、直ニ御盃被仰付

候

一、三月廿一日石井瀧右衛門小頭被仰付御請、直ニ御礼申上候、

御頭様相濟／樽肴御祝儀銀式両一包

(58頁)

一、同日白石忠右衛門御暇願の通被仰付、忝量蔵本組被仰付

直ニ御請御礼樽肴一口香一袋

右兩人共石井又七殿ニ召連、先頭本沢甚兵衛殿江召連、樽籠

肴上／直拙者勘定相仕廻、同廿七日引取

一、同廿六日稽古被仰付、上米も御座候ニ付、此以来稽古後

是迄の通り樽肴等指上不申候様、指上候共御請不被成候段

被仰聞候ニ付、無滞稽古相仕廻、悦、且用銀も相願申候ニ付、

為神酒小樽ニ籠肴添、以来右の通り

一、同日小頭四人当時支配月番持ニ被仰付、有助・直右衛門・

善右衛門・瀧右衛門ニ四人ニ而御請申上候、右ニ付樽肴差上ケ

同廿七日引取、同廿八日直右衛門・瀧右衛門・量蔵、拙宅ニ

一礼ニ参り

一、四月朔日真藤勇助組年寄役申渡候

一、四月七日大瀬儀平本組被仰付候、此者忠左衛門ニ男物懸相

勤／罷有候処、親跡ニ相願申度、御頭様方御奉行衆被及御相談、／彼ノ方支配被指除候ニ付、此元御組ニ相願被召出候

一、真藤有助養子二男要吉、願の通相済、六月六日付送り来ル、

松田勘六殿・貞方東八殿方相達、請込手形同十日仕出申候

一、神田宮内殿三月十一日出船上京被致、十八神道の官位請、

五月十九日／下着被致候、留守中中書出奔致候

一、中書出奔ニ付、従弟の続ニ御座候ニ付、奉恐入指扣の義郡治右衛門殿相頼

(59頁)

申達候処、五月廿七日直御月番瀧 弥一右衛門殿ニ被仰達候

処、被成御承知／被指免候段、同廿八日申来、同廿九日平戸

二罷越上下ニ而御礼申上候、／同晦日引

一、殿様四月十九日江戸御発駕被遊、五月四日大坂御着、同八

日／御出船被遊、御船行ニ而五月廿二日御入部御帰／城、

右御祝詞何も渡海、拙者義右中書義ニ付差扣罷有、

同廿五日小頭真藤有助・平真藤勇助為御祝詞と差越申候、

上下ニ而罷出

一、殿様五月廿六日長崎御出船被遊、六月朔日御帰／城被遊

候由

一、拙者晴厄悦、六月五日方病氣不参五左衛門殿・紋治殿・和五

郎殿・代官不参三右衛門殿・小平治殿・／正蔵殿・勇五郎殿・

菅右衛門殿・平五左衛門殿・治左衛門・幸左衛門・善右衛門・佐助・兵助・／孫次郎・吉右衛門・不参庄屋猪右衛門・

筆取平蔵・同喜右衛門ノ宮内殿講経相頼、ノ廿人要吉殿・文

治殿近辺かせい

一、同六日支配組中廿四人、老人左戸八跡、外、兵蔵・龍蔵・赤

崎喜右衛門・忠左衛門・／久蔵・瀧蔵・喜三治ノ三十一人、

跡ニ而正蔵殿袋・菅右衛門殿内龍三袋・直右衛門内・／平五

左衛門内・善右衛門内・久蔵内・瀧右衛門内ノ八人、直治・

栄吉・継右衛門内おその・／用蔵内三人、都合四十七人

一、同七日六左衛門殿・弁七殿・駒弥殿・隼多殿・佐伝治殿・お

ば殿・要人殿・猪之助殿・／要吉殿・文治殿・一山殿・宮方

子共兩人ノ十三人

惣ノ八拾人、三日客来相仕廻申候

(60頁)

一、御入部ニ付御礼被為請、御書付写之

一、今度

御入部ニ付而の御礼、来ル十五日ヨリ

被為 請候事

一、五時過揃の事

一、御礼被為

請候次第左の通り

六月十五日

一、御居間、典膳初年寄中御礼

一、御役人中

一、御近習御書方、御近習医師、御小納戸下役

役馬廻り以上

一、表_江

御出表御同苗初、役方馬廻迄御礼

一、中小姓御茶堂・御徒士・御坊主、踏絵御免之者鷺間_江

並居、一同御礼

同十六日

一、隠居親懸之面々御礼

(61頁)

御組々

一、御弓之者方与力足輕迄

正月二日之通_リ

同十七日

一、在々侍中十五日残分御礼

一、中小姓御徒士、御料理之間、並居

御出懸 御覽

一、御同苗年寄中家来

一、町人中 在々迄格式町人_{ニ出ル}

一、御長柄之者方町同心迄 正月三日之通

同十八日

一、御对座寺院以下末寺、出家迄御礼、社人・山伏・座頭・

陰陽師

一、海寺・大善院・相乘院

一、両山

正月四日之通

同十九日

一、在々寺院・社人・山伏・座頭

右之通_リ

六月十二日

(62頁)

一、六月十四日洪水、川渡相不成申八半頃方船仕立出船、紋治

殿・／要七殿・竹哉殿・兵左衛門殿・喜三右衛門殿・要吉

殿・安私殿・兵藏・拙者・善右衛門組五人・／人足山田・鴨

川・下式人、都合十八人夜入五ッ頃平戸_{ニ着ク}

一、同十五日、元日之通御礼申上、御土器頂戴、八ッ頃下

城、夕方御組中相揃、善藏病気忝人_ハ同用_ズ式人外_シ

一、同十六日、二日之通御礼相済、直_ニ御頭様_ニ罷出皆々引取

船方登_リ人数之分残_リ

一、同十七日九ッ頃平戸出船津吉_{ニ着}、同十八日志自岐山参詣

要吉・斧左衛門・直右衛門・善右衛門・四郎右衛門・貞助・
要蔵・形右衛門・覺助／＼九人連八ッ頃津吉ニ帰、直ニ出船、
夜五ッ過ニ帰宅

一 昨年丑秋御触書写 後ニ書留置候

寺社給人之中、上納皆濟日限ニ相成候而茂

不納候ニ付、庄屋方カ毎度致催促候得共、彼是と

及難渋急埒不致、外風僧ニも相拘カり猥ケ間敷

向茂有之哉ニ相聞得、素モトより田畑ヲ請持

致耕作候者、脇間・人内・百姓之指別ハ無之

義ニ候得者、甚々等閑之心得ニ候、依之皆濟

日限迄上納手当不致、庄屋方カ懸合候而も

(63頁)

急埒不致面々ハ速ニ可申達候、若又对其

人品申達候儀及延引候坎、或ハ馴合相掩おおい

候躰之義有之、後ニ於相頭ハ代官、庄屋

急度越度可申達候、右之趣田畑請持候

寺社、給人中江茂郡方カ相達候様、可被

相計候 以上

九月九日

松浦典膳

勘定奉行中

九月廿二日、代官殿カ廻札ヲ以申触有之候ニ付、留置候
庄屋方申来候ハ組中ニハ拙者方カ申聞具候様相頼来候ニ付
致承知候趣申遣候、組長屋ニ呼出申聞候事

卯

一、四月八日白石忠右衛門、去冬忠右衛門一同引格御弓組願差

出置候処／相濟、幸平戸罷越居り候而御請申上引取、忠右衛

門病氣ニ付追而罷出候／七ッ頃方引取、同九日忠右衛門、儀平

拙宅ニ直右衛門同道相見得、樽肴直開

卯

一、七月二日組勘定ニ付船方平戸行、嶺左衛門・直平・要吉・

直治ハ親懸四人御目見ニ召連、同三日朝着船、中ノ崎方

上り、御頭成田紋左衛門殿ニ直ニ罷出、相伺申候処、御見分

可被下旨ニ付／宿ニ引取、九ッ頃右見習願之者召連行

(64頁)

同五日勘定引合差出、同九日帰宅

一、殿様長崎御出、五日朝六ッ時御出船被遊ル

卯

一、八月四日方同五日朝大雨降候処、大新田一面湛、水廻シ行、

大川／壱升ニあまり、津元、蔵ノ本惣こし、長屋上方登リ水垣

筋／惣越、要七所いかニつかへ候由、久方之洪水

一、先達而松前東えぞ・おろしや大船式艘、小船ハ所々浦々数艘

参申候^而公義^{に而}御手当、若御老中・大御目付・御目付・其外
松平政千代様・藤堂和泉守様・酒井左衛門尉様・津軽越中
守様

一、八月朔日三社宮^江歌仙寄進奉献候、牧崎参籠神酒御供献候、
寄進札／懸申候

一、卯八月、吉田村百姓卯七郎^与申者、去^ル丑年御家中^ニ相对奉公

居候^而御蔵^ニ被指出候／米盗取壳払出奔致、此度立帰申候由

^{に而}繩懸吳候様申来、鐘右衛門・義平・吉田庄屋／縛^ニ遣

候、其後平戸^へ連越候様申来候由、形右衛門・形八兩人指

越申候、代官吉元茂平治殿

一、八月十五日被 仰出候趣、御家中初末々^ニ至迄、御宛行御扶

持方／書出申候様、同十六日御頭様方御状相達、夫々相調

べ申候、年、名、所迄

一、組替、加増、昇身、格落、□□、時々申達候様被 仰出候

趣、御書付^へ／参不申候、書上左之通り

成田紋左衛門組

段

居所佐々里村

大小頭御徒士組

一、切米六石 吉永斧左衛門
六合五勺老人扶持 当卯四十二歳

居所佐々里村 小頭

一、切米四石五斗 真藤有助
六合五勺老人扶持 当卯五十九歳

居所↓同村 小頭
一、切米四石 横田直右衛門
六合五勺老人扶持 当卯六十四歳

(65頁)

居所右同村 小頭
一、切米四石 金子善右衛門
六合五勺老人扶持 当卯五十五歳

居所右同村
一、切米四石小頭 石井瀧右衛門
六合五勺老人扶持 当卯六十二歳

御鉄砲之者

居所市瀬村
一、切米四石 吉良勇平
六合五勺老人扶持 当卯五十

居所小佐々村
一、切米四石 坂口重右衛門
六合五勺老人扶持 当卯五十

居所佐々里村
一、切米四石 山本牧助
六合五勺老人扶持 当卯四十七歳

居所右同村
一切米四石 真藤勇助
六合五勺老人扶 当卯四十六歳

居所猪調村
一、切米四石 森兼助
六合五勺老人扶持 当卯 四十四歳

居所佐々里村
一、切米四石 岩崎貞助
六合五勺老人扶持当卯四十三歳

居所右同村
一、切米四石 出口継右衛門
六合五勺老人扶持当卯四十一歳

居所右同村
一、切米四石 出口要蔵
六合五勺老人扶持当卯三十八歳

居所小佐々村
一、切米四石 石田形右衛門
六合五勺老人扶持 当卯三十歳

居所右同村
一、切米四石 石田形八
六合五勺老人扶持 当卯三十歳

居所佐々里村
一、切米四石 宮嶋覚助
六合五勺老人扶持 当卯

居所新田村
一、切米四石 泥谷弁左衛門
六合五勺老人扶持 当卯二十七歳

居所佐々里村
一、切米四石 坂口富蔵
六合五勺老人扶持 当卯十八歳

居所小佐々村
一、切米四石 白石領蔵
六合五勺老人扶持 当卯三十一歳

居所日字村

- 一、切米四石 松村四郎右衛門
- 六合五勺老人扶持 当卯四十歳

居所小佐々村

- 一、切米四石 志方卯之助
- 六合五勺老人扶持 当卯五十歳

- 一、切米四石 居所山口村
- 六合五勺老人扶持 当卯四十歳

総人数 式拾六人

文化四丁卯年八月廿日 差出申候事

居所市瀬村

- 一、切米四石 大瀬儀平
- 六合五勺老人扶持 当卯三十九歳

居所佐々里村

- 一、切米四石 真藤右伝次
- 六合五勺老人扶持 当辰三十二歳

辰四月二日組入

一、吉田村市ノ原新堤、去ル戌ノ年方子年迄三ヶ年ニ都合五度ニ築立懸捨ノ置申候処、漏申候由ニ付、土肥割被仰付候処、漏留候

ニ而ハ 御普請組普請致方ノ

(66頁)

無之候ニ付、名前書出候様申来候、小頭組中不残ニ而相勤居申候段ノ申達候処、不残名前書出申候様との事ニ而小頭初組中名前ノ不残書出置申候、相神浦組同様申来候

一、真藤勇助、森兼助内絵願差出申候処、八月廿五日相濟申候段ノ申来候ニ付、右兩人ニ申遣、同廿六日渡海、同廿七日御頭成田紋左衛門殿ニ御請ニ召連申候、同廿八日引取申候

一、榎渡瀬村田要七飯屋敷上下堺、立会相極メ呉候様申来候ニ付

卯九月四日吉永斧左衛門・小頭横田直右衛門・金子善右衛

(67頁)

門・平組坂口重右衛門ノ四人立会、上ハ榎渡瀬ニ以前古道有之候所限り、其迄ハ古川ノ中倉甚吉借居候畑ノ口、甚吉方も善右衛門ニ申遣候、下ハ以前渡道古橋ノ所方大川ニ見渡、尤土肥ニ梅木有之候下ハ前方石田与平殿大小頭之時分、吉富瀬左衛門内々借居候由、夫方ノ下、瀬左衛門ニ借シ可申段、是又善右衛門ニ申遣候事、右要七ノ屋敷十四、五年以前ニ古川ノ左市と申者相願、丸はね之上内々ニ而ノ家立、豆腐など拵居申候処、中村富次郎家ウリ渡、又其後ノ要七ウリ渡、是迄三人目ニ而御座候、土肥筋差支ニ相成候節ハ何時ニ而も取揚可申所ニ而御座候、就右書留置候事

本屋敷古社地前 畑開

一、田方八畝式拾四步

高 八斗八升

卯九月十日御竿入、古社一同

御高 壱石代

但畑方六畝拾式部 畑高引田方直

御竿入不残相濟

免奉行裏判役

同

御代官

栗林里ノ者

大曲助左衛門殿 殿川和吉殿 吉元茂平次殿

初頭紋左衛門

御郡代

同

御庄屋

古川蝕

川上八十七殿 大山兵八郎殿 坂元伊右衛門 同 伝右衛門

手代御馬廻見習

同

筆取上

のより

古川慶作殿 橋本甚五兵衛 坂本平蔵 同 善八

同

中川豊八殿

帳元御中小姓 同下

市瀬吉三郎殿 浜野吉右衛門

木場

同 宗右衛門

同

村木喜八殿

御徒士組

里触

小崎嘉藏殿

初頭幾之允

同

口石

有浦条治殿

同 小助

右免方之節、里懸中申談、一同仕出方古川寄平所にて

有之候由、米錢久藏ニ相頼遣申候、其後川上八十七殿ニ銀一封、燒鮎一連為持礼ニ罷出候、大曲助右衛門殿ニ燒鮎一連為持罷出候／代官殿ニ銀一包、庄屋ニ肴代錢貳百文一包持参致候

一、卯九月廿三日、年廿三忠八二男松田善藏、真藤佐渡八跡入ニ

而御組被召出候／十月十四日方御鉄砲番一詰致候後、病氣ニ而不参、辰正月有助方方不縁／致候由ニ而、勇平、牧助惣組中方之取扱ニ而相談致候得共、口石ニ参候義一円／承引不致、就右ニ相組中方申聞候義聞入不申候ニ付相不勤、御暇相願申候ニ付申達候処、願之通御免被成組指除、辰二月廿九日組長屋ニ呼出、申渡／小頭直右衛門、年寄勇平罷出候、米貳俵組扶持ニ吉藏相渡候

(68頁)

一、卯七月廿五日代官吉元茂平次殿申来候、吉田村百姓卯七と申者、去ル／丑年御家中江相對奉公仕罷有候処、御主人方御

藏ニ被差出候処、米売払／代銀盜取出奔仕罷有候処、此節立帰候ニ付からめ御組指出呉候様申来候ニ付／兩人遣候、其後平戸連送申候

一、於江戸卯八月十九日、深川八幡宮祭礼ニ付大勢参詣候処、永

代橋落怪我人

溺死

七百三拾六人

内 八十六人

同 百五十人

内四百廿四人町人同七十二人子供男女

外ニ半死同様怪我人貳百壹人 死骸引取人無之者 拾壹人

外ニ行方不知趣追々訴出候得共、死骸不出分百廿三人

怪我人

合千七拾壹人、右南之御番所御月番ニ御調写

溺死人

半藏方方／申来候扣

熊沢

安田

貞方

中山

松崎

一、半左衛門殿、久三郎殿、立桂殿、善十郎殿、八九郎殿、卯

八月廿八日方九月四日死去於江戸ニ森治五郎殿も追而死去かつけしまんト申煩之由申来候

一、卯十月廿三日夜五ツ頃、御母公様手水ニ御出被遊候而風与御病氣被附／其まゝ一向本心なく茶飯共不通申、同廿四日昼頃御死去被遊候

(69頁)

文化五 辰年

- 一、正月元日例年之通御札相済、御三家御同苗・御年寄衆御用人・御奉行・大目付勘定役衆・御家中御出入方々・先御頭様御年始廻相仕廻、同二日御組中御札ニ付例之通登城、御鐘之間相詰九ツ過相済下リ／御頭成田紋左衛門殿ニ罷出、御鉄砲打初メなど相仕廻、同三日引取
- 一、正月十六日御備被遊御覽候段被仰出、十四日惣登リ上御不快ニ付御覽御延引、皆々引取
- 一、二月九日又々御覽被仰出、七日ニ惣登リ候処未御不快、同十一日ニ延ヒ、何角用意具足甲ニ而の筈、御城内江持込候処一円御不快ニ付／御覽当春御延引之趣被仰出候ニ付、皆々引取、臨時ニ付組宿賃／老人分三步宛、大小頭四歩五厘被仰付候、宿木田徳右衛門ニ相渡ス
- 一、殿様御参勤ニ付二月廿三日御通行、爰元御小休中里御泊リ、長崎／被遊御勤、直西国路御陸行、小倉方御船行、例之通爰元御本陣江御門番、立番差出候
- 一、真藤有助方佐渡八跡ニ右伝次養子相談相済、三月廿九日平戸へ召連、御頭成田紋左衛門殿御目見へ仕、御組被仰付候趣ニ御座候、四月五日本組被仰付候、同日直稽古被仰付候同六日平戸引取、おちさ西ノ久保方隙取連帰申候

(70頁)

- 一、栗林下抜所之大新田、井手掘替願済取リ、五月二日相済
- 一、四月十五日出立武雄入湯ニ、要吉殿同道罷越、唐津之様参リ同二十五日罷帰、武雄滞留之中、須こ水鏡音(寺カ)ニ一日参詣、一日祐徳院ニ参詣致候
- 一、赤崎外湯、去ル申年浦永喜右衛門、屋敷塩浜相願済ニ御座候処、当／春方取懸居申候、尤森田兵之助銀元ニ而御座候由ニ候得共、銀不足ニ而色々間違、漸辰六月廿三日潮留致、少々浜開も出来、塩水取り／居申候処、九月朔日夕潮ニ打切申候、又々外ニ銀主有借用之由ニ而／文化八年九月廿一日潮留致候、未年二反ほど浜開、水取塩焼立／同年九月末御竿入、三反五畝、内五畝潮遊、御高老石五斗代々／老つ成、定物成居申候由
- 一、三社宮社内ニ金毘羅宮御鎮座役方及内談出来、村中／奉加申談、世話人久蔵、勝三郎、森助相頼、口石筋勇助、弥太六相頼追々出来、辰六月廿六日御鎮座御座候、大元施主嘉三次奉献大神楽候
- 一、おちさ事、立石村上重右衛門殿仲人ニ而高橋奎平次殿喜曾八殿ニ縁談相極申候処、重右衛門殿急ニ出府被仰付候由ニ付、出立前何卒／為引越呉候様相談ニ依而、風与八月十五日ニ引越サセ申候、彼ノ方方／九月十三日ニ相見得申候

(71頁)

一、京助儀八月八日、拙者当役見習候様被仰付候、御頭成田

紋左衛門殿へ御樽肴、御菓子料金百疋差上申候

一、志方常平所御新田土肥、重揚願濟、六月方取懸

一、八月十七日朝、長崎方四時到来、いざりす申船参候由、直

ニ出船／就右佐賀様百日御閉門

一、八月四日石井善藏、御普請方頭料申渡候

一、八月廿九日御頭成田紋左衛門殿奥様・泥谷八十八殿下女式

人・家来耆人上下／六人御出被成、晦日御延引九月朔日御

帰、船ニ而送り罷越、北指嵐大矢浦／岡本市郎兵衛方御一宿、

翌二日早朝出船、五ッ過ニ中ノ崎ニ着キ、直ニ虫干／など致同五

日引取

一、十月十三日京助、形八同道祐徳院参詣、同十五日帰申候、願

成就旁遣し申候

先達而長崎表江異船致渡来、於彼地牛、羊并水薪など以謀計申請

剩、上陸ノ上畑物など押取いたし候趣ニ相聞得、若右様之賊船耆

岐国ノ小値賀其外平戸島々端々御領分之内、何之所ニ致漂着儀も

難計、万一ノ漂着之上人家江仇ヲ成シ候歟、亦は畑物など押取致乱

暴放火鉢之義／其外理不尽之筋も於有之は、其所之奉公人ハ勿論、

最寄在浦ノ百姓浦人ニ至ル迄一統出会、棒并木太刀等之類持出、

精々相働／可成尺可生捕候、若又彼之方方鉄炮其外飛道具など

相用候は、

(72頁)

銘々所持之殺生筒ニ而勝手持出、相防可打留候、彼ためニ取掠乱

暴ニ逢候鉢之義有之候而は、对他国永ク可為日本之恥辱、且又

兼々異船御手当義は 従

公儀追々被仰出候筋ニ候得は、右鉢理不尽之義有之候を／其俣指

置候而は外聞異議相不濟事ニ候、下々にも右様ノ之所得と合点い

たし、誠精可相働旨申論、其切ノ有之者江は屹度可及御褒美之沙

汰ニ、全此方方先ッ／手ヲ出候訳ニは無之、彼ノ方方右鉢理不尽之筋

有之候／は、暫時も不聞可生捕候、右手配等之義兼而申合ノ相図

を不定置候而は、急ニ大勢寄合候事も相成間敷候／右様急変之節は

竹、貝など相用イ一統相集り直様取懸ノ候様之義も、其懸之役人之

上都合宜敷方、兼而可定置候ノ耆岐国、小値賀隔遠之所ニ候得は、

此方へ申達取計方、指図ノを請候様有之候而は、指懸急場之義全

不問ニ合、後れノ候而は不相成事故、兼而心得之所相達置、下々至

ル迄ノ一致右之通相心得候様、可被申触候

九月 月番

勘定奉行中

(73頁)

異船御取鎮御用法

一、異船佐々口江相見得候節は、小佐々懸足毛馬之辻ニ火立候事

但相神浦方之請火、同所同断

一、鷲尾嶽江請火、市瀬村方火立可申事

但田平、江迎方之請火、同所江猪調村方火立可申事

一、柘植之尾首江請火、小佐々村方火立可申事

但海上嶋内へ異船相見得候節、并田平、江迎之請火

右同所へ鹿町懸瀬戸之木場方火立可申事

一、右請火鹿町懸清水山ノ辻江火立可申事

一、右請火長坂懸白岳之辻江火立可申事

但御厨方之請火、同所同断

一、九艘泊沖江異船相見得候節ハ、小佐々懸大野之辻江火立

可申事

但右之節請火、柘植之尾首、足毛馬之辻へ火立可申事

一、雨天ニ難火立節ハ右場所々々ニ鉄炮三放シ宛打可申事

一、長坂・猪調両村・諸人集り所・寿福寺下札場

一、鹿町村右同所、下ノ口ノ注進之節ハ、歌ケ浦津元蔵、上ノ口方

右同断之節、鹿町庄屋

(74頁)

一、佐々里村右同断之節、御普請組長屋方津元蔵之辺

一、吉田村右同断之節、中原

一、市瀬村右同断之節、庄屋前小札場

一、小佐々村右同断之節、庄屋前小札場

一、異国船及見候は、右之通火之手を合可申事

一、火之手及見候は、早鐘撞、太鼓を打、螺・竹・貝など

を吹、村々人数集所江馳着可申事

一、銘々心得之道具持出可申事

辰十月 佐々

江迎

以廻札得貴意候、異船若御領分之内江漂着致候節取計方之義、

此節御書付ヲ以被 / 仰出候ニ付、写一通并在方手当之書付相

添相廻候間御承知置可被成候、此段可得貴意、如斯御座候、

以上

十月五日

吉元茂平次

各様

(75頁)

右廻札小筆取持廻申候ニ付、写留置候事

一、赤木利兵衛海士見崎壺本松ノ下、水返之内、願濟屋敷替

作事出来引直リ、瀉地追而畑なとニ開立申候願ニ御座候

文化七午年はねたけ築留畑方ニ致、午秋御免方之節御竿入

八年御免

御奉行

帳本

御代官

古川触

中原丹右衛門殿

村上彦七殿

吉本茂平次殿

初頭伝右衛門

御郡代

手代

御庄屋

川上八十七殿

鴨川和五郎殿

大浦宗助

同

大小頭

牧山勝藏殿

吉永斧左衛門

一、極月廿九日風立、拙者人足連渡海候得共、江迎方荷物延引、

善藏日ノ浦へ残置候処、渡留リ漸元日ニ相見へ右ニ年暮ニ不参候、京助遣候

文化六己巳年

一、正月元日荷物不参ニ付、御礼登 城不致候、遅々八ノ頃善藏及難義ニ渡海、御組中茂日ノ浦泊リ老人茂相見へ不申候

一、同二日御頭様御年始ニ罷出、追々組中渡海、四ノ頃登 城例之通ノ御鑑之間ニ相詰候、九ノ過下リ御頭様ニ罷出御鉄砲打初相濟例之通ノ御盃御節被仰付七ノ頃引取

(76頁)

一、当年方御普請組方足軽九人、小頭老人江戸本庄詰被仰付候段被仰渡候、御書付左之通リ

御書付写

御普請組之儀、佐々・相神浦新田普請受持之事ニ候

所、至近年に破損所も間遠ニ有之趣相聞候、就右以来は

異変御手当之方專可被 仰付御内慮之筋も有之ノ候間、来春方二組之内足軽九人、小頭老人江戸表ノ本庄詰被指越、一年代リ為致候様被ノ仰出候間、被得其旨可被申付候、尤指越候頃合之義へ来春登御先手足軽一同致出船候様、可被取計候、以上

辰十二月廿八日

月番

成田紋左衛門殿

鮎川庄吉 殿

巳

一、正月十一日御普請始ニ付、人調左之通リ申達候処直ニ被仰付候

小頭

金子善右衛門

森兼助

松村四郎左衛門

坂口富藏

真藤右伝次

五人

(76頁ノ1)

御書付写

御普請組之儀者佐々

相神浦新田普請請持之

事^ニ候処、至近年破損

所も間遠^ニ有之趣相聞候

就右以来^者異変御手

当之方專被 仰付

御内慮之筋有之候間

来春^方二組之内足輕

九人小頭^者人江戸表本庄

詰被 差越、一年代為致

候様被

仰出候間、被得其旨可被

申付候、尤差越候頃合之

儀^者、来春登御先手

足輕一同致出船候様、可被

取計候、以上

十二月廿八日 月番

成田紋左衛門殿

鮎川庄吉 殿

(77頁)

一、正月廿九日宿元出立、二月三日平戸出船田助廻之由、三月

二日／江戸表着之由、於江戸御鉄砲稽古被仰付候由、小頭

同様稽古被／仰付候段申来候、六月十三日書状^ニ大筒^茂拾五

匁^方参拾目迄稽古／仕候由申来候、六月七日稽古^ニ塩焔箱^ニ

火飛込、四郎右衛門、右伝次兩人／やけど致候由申来候

御鉄砲御師匠御旗本八百石 相神浦組

谷庄右衛門様 松村六之平

御嫡子 青井三左衛門

同 邦三郎様 馬場林蔵

吉居銀左衛門

吉居伊平次

文化七^午八月十二日右五人江戸出立被仰付、九月十六日平戸

表着船、同十八日／宿所引取、御鉄砲稽古出精仕候由^ニ中

目録御免之御切紙など／拝領罷下申候、相神浦五人^茂一同拝

領御座候、尤四郎右衛門義／去七月火けが^ニ稽古出来不致、

御免^シも、拝領不致由／四郎右衛門病氣、善右衛門九月末頃^方

病氣、年内出勤無之候

一、春・夏・秋^ニ懸^リ大旱^ニ而殊之外早損致し、本屋敷など漸米拾

俵^{ほど}／御座候、五月三日大川難渡雨降候後、同十八日少

降、いもなど植附／其後早立七月廿九日久方^ニ降落申候

一、石田平太郎新酒屋願、去八月^方願出居申候由候処、当八月

八日願の通り／相済来候由^ニ而、八月中頃^方売場出申候、屋

敷手せまく御座候由^ニ而／赤木利兵衛本屋敷、広川宴私殿古

屋敷ニ直り申候、午年新酒より／手作リニ御座候、尤新酒屋願、郷中四ヶ村願ニ而御座候

一、午五月十六日成田紋左衛門殿、御用ニ而御先手同前組被成御預候申来、／同十八日罷越申候処

(77頁-1)

御普請組足輕 九人

同小頭 壱人

五月初旬平戸出船

六月初着府

右本所詰御普請組足輕交代時節之儀先達而相達置候処於江戸鉄砲稽古之義者専夏分之事ニ付、最前之通ニ而稽古向指支ニ相成候旨申来候、依之此節猶亦右之通相極候間被得其旨、已来無間違様可被取計候

巳

十二月 月番

御普請組頭中

(78頁)

鮎川庄吉殿川下組御頭仮支配ニ被蒙仰候

一、於長崎宗像平次左衛門殿、御普請組被成御預候、十二月廿日／御引取、庄吉殿同廿日御死去ニ付、新組頭守山文平殿方同廿五日御引渡相濟申候、有助詰同日廿六日ヨリ直右衛門詰

御書付写御頭様江御座候由

一、御普請組江戸詰交代之義、最前被 仰出候通りニ而は鉄砲稽古夏分専事ニ付、以来ハ五月初旬平戸出船、六月中旬江戸表着仕候様被 仰出候趣ニ御座候御月番様方両御頭様ニ相渡候由ニ而、来春詰代リ登リ其心得ニ而相仕廻申候様、被仰付候文化六巳十二月被仰出候趣ニ付、書留置申候

(79頁)

文化七午年

一、岩崎定助病身ニ而旅行不相成候ニ付、御暇奉願候ニ付申達候処、正月廿二日／御暇被仰付、引格内踏願之通リ被仰

二月九日引格被仰付候

付候、養子峯左衛門同日直本組被^レ仰付、江戸詰被仰付

一、当年江戸詰代、鬮取^二申達候

山本牧助 出口喜三次 渋谷弁左衛門

白石領藏 岩崎嶺左衛門 五人

小頭 相神浦組方 馬場郡之允

四月廿八日宿元出立、五月四日平戸出船、六月十九日江戸着之由

一、三月廿五日、平田逸作殿被参候由、大新田土肥櫛植付被仰

付候由、先達^而御勘定役衆、御郡代役衆方申来居候処、此

度植付^二被相越候^二付庄屋^レ拙者立会申候^而、同廿六日方植

付御座候

一、拙者儀、去九月組中難渋申出候^二付、当二月廿日善次兵衛相

頼御暇願^レ指出置申候、得と御勘弁も可成、且御同席可被

仰談候^二付、先^ッ御預^リ被置候趣^三願書御受取、追^而右被仰

聞候由^二御座候、四月十七日罷出^レ候処、右願書未及老年と

申候^{にても}無之、病身と申^{にても}無之、数代大小頭^レ大切と申計

にては御暇願難申達、先^ッ相勤申候様被仰付、難有御請

(80頁)

申上候、願書も御返^シ被遊^テ受取申候、同廿二日稽古被仰付候

二付、其趣^レ小頭初御組中^ニ申渡候事

一、五月二日御頭宗像平次左衛門殿方御状相達候処、拙者初小

頭御組中人別^レ書上仕候様被仰越、同三日平戸へ罷越申候処、

何之年号、何月何日被召出^レ何年何月何日^ニ転役被仰付、

段々々々

同様書出申候、右扣別紙

内踏被仰付居候者御座候

被仰付様、委細書出申

申達候

左記□文貼付

候様被仰付候、小頭、平組
処、御組之者之内
付候様、諸作柄年数^二而
五月廿二日又々渡海

何月何日

何之何年小頭被

仰付何年相勤

何年何月何日大小頭被

仰付

一、六月七日洪水^二かいら川土肥打切、口石小浦惣人夫^二而

申候、八月方御普請^レ取懸土肥拵致し、村夫等召仕申候

一、御頭宗像平次左衛門殿、八月廿二日御用^二而

大目付被蒙仰候段申来、九月四日御祝詞^ニ罷越申候、御樽肴

差上申候

一、両御普請組之義、以来、大筒組^ニ被仰付候段、先達而御隠居

様方内蔵助殿へ被仰越候段、内々御達御座候趣、被仰付候、

委細^ハ追^而被仰付由

一、九月八日かいら川土肥打切水損所御見分、直大新田土肥通

赤木利兵衛^レ新田御竿入之段、昨夜御代官殿方申来立合

一、かいら川五左衛門殿作、七年免シ、伝蔵作五年、兵助作三年
少々打ほがし

(81頁)

当毛荒ニ相済申候

同日

一、赤木利兵衛新田御竿入、式反四畝、内六畝潮遊、残老反八畝
(四十間、十八間) / 八ヶ年御免、追而田方ニも相成可申、一ハ

又々御見分、水溢等手入之模様ニ寄、尚又年次も可被仰付
との義ニ御座候、御立合之御人数前ニ有之

一、九月廿五日平戸へ罷越申候処、同廿六日川下御頭志佐岡右衛
門殿御宅ニおいて / 両組大小頭、小頭一同ニ江戸表從

御隠居様方相達申候御書之趣、御読聞セ被成候上、以来大筒
稽古之義得与申談候様被仰付候、同廿七日川下組久田伊平次
相見得申候ニ付、武衛流大筒拝見ニ御台子ニ差出申候

一、真藤有助・石井瀧右衛門兩人共及老年、小頭難相勤御暇願
差出置候 / 有助義ハ数年小頭役相勤申候ニ付、引格御徒士組
願差出置申候処 / 十月七日御尊書相達申候処、真藤有助・
石井瀧右衛門・真藤勇助 / 大瀬儀平・石井源蔵・真藤要吉
同八日召連平戸へ罷越候、直ニ御請 / 罷出候処、明朝召連罷
出候様被仰付候、尤瀧右衛門不及上下ニ段申来候 / 病氣ニ而
不参候、同九日何連も召連罷出候処、有助義及老年難相勤

御暇願之通被仰付候、数十年魂丹相勤申候ニ付、引格御徒士
組被仰付候

(82頁)

瀧右衛門御暇願之通被仰付、支配役横田直右衛門被仰付候

要吉事

真藤勇助・大瀬儀平 / 兩人共小頭被仰付候、源蔵・長左衛門、
直ニ本組被仰付候、有助御月番之 / 御家老山鹿伊織様ニ被召
連候、八ヶ頃方右五人御礼ニ召連罷出候 / 御樽肴酒老斗、塩
鯛一折、するめ二斤、肴代青銅老貫文

(82頁)

有助・勇助・儀平老人前金百疋宛、為御祝義差上申候、源蔵・
長左衛門一口香一袋宛添、岡右衛門様ニハ御礼ニ召連申候、同
十日引取、十一日ニは / 拙宅ニ右為礼相見得申候

一、殿様十月廿三日御発籠、中里御泊長崎御勤、小倉方御船ニ而
室方又々 / 御陸行之由、高力慶介殿御供ニ二男久吉遣申候
十二月七日御着府之由

一、大筒御見分之趣申来、江戸下之者召連十月晦日平戸行、善
右衛門 / 兼助・四郎右衛門病氣ニ而不参、留蔵・右伝次兩
人登り、川下組五人共登り
十一月朔日岡右衛門様御出、稽古銃薬など積方被仰談候有、
同二日被仰達 / 御座候由ニ候得共、渡方相済不申三日滞留

同四日

- 一、鉛三貫四拾匁
- 一、大筒百目銃 壹挺
- 一、塩硝一貫百目
- 一、同參拾匁銃 壹挺 相渡

相渡兩組^ニ而

- 一、同拾匁玉 三丁
- 一、鑄形 三膳
- 一、鑄なべ 一ツ
- 一、込矢 式本

右之通仮手形^ニ而

同五日 天氣能

- 一、追廻^シ馬場^ニ而 百目、參拾匁、拾匁老人前五放宛為打申候

無滯相仕廻申候、同六日引取

- 一、十一月十日勇助小頭歛有

- 一、十一月十二日祐徳院參詣、内分^ニ而 形八・辰治同道嬉野泊、

同十三日參詣／武雄泊、黒髮山參詣、同十四日少々及暮歸

宅致候

(83頁)

- 一、同十六日船方平戸行、矢場拵同十七日帰宅

- 一、同廿一日有助・長左衛門祝ひ有^リ、同廿三日儀平小頭歛有^リ

- 一、十二月二日平戸罷越、同三日早朝御頭様^ニ罷出候処、先達^而被

仰達候／大筒稽古、一ヶ月^ニ老人前十放打之積、銃葉^并諸色共

積出候様／被仰付候、則別紙之通書付差出置候

大筒稽古銃葉積^リ書

但式拾人^ニ而老人前一ヶ月拾放打^ニメ

- 一、塩硝貳貫六拾目 内五放十匁筒、同四放三拾目筒

同壹放百目筒打之積^リ

十二月月分

百目筒 拾五匁葉

メ 塩硝貳拾四貫七百貳拾目 但 三十目筒拾貳匁葉

拾匁筒 八匁葉^ニメ

但、右同断、拾匁銃五ツ、三拾匁銃四ツ

- 一、鉛六貫四百八拾目 百目銃壹ツ 拾匁鑄足^リ式割引之

積^リニメ、一ヶ月分

計

- 一、塩硝四拾九貫四百四拾目 但、兩組^ニ而 四拾人、十二月月分

- 一、鉛拾貳貫九百六拾目 但、右同断 一ヶ月分

右之通、兩御普請組大筒稽古入用鉛、塩硝大積仕候

以上、 午十二月三日

大筒稽古入用諸色積^リ

(84頁)

- 一、中火繩 拾方 但、式拾人^ニ而一ヶ月^ニ一度、老人前半形宛之積

十二月月 拾貳拾方

- 一、角板八寸方式拾枚 但、式拾人^ニ而老人前一度、壹枚宛之積にメ

十二ヶ月分 式百四拾枚

一、半紙 百枚 但、右角はり入用、角一枚五枚張ニメ

十二ヶ月分 式百枚 六束

一、同 式百枚 但、御鉄砲ふき入用、耆人前拾枚宛ニメ式拾人分

十二ヶ月分 式千四百枚 拾式束

一、胡麻油耆合

十二ヶ月分 式升式合

一、とのこ

一、ごふん

一、のり

一、すミ耆斗ほと

一、薄縁式枚 但、式間積

一、宿賃 但、人数日数次第、時々可申達候

右之通大筒稽古入用品々、一組ニ而一度分荒積仕候、以上

午十二月

奉伺覚

両御普請組、此度大筒稽古専仕候様被仰付候処、大筒取扱申

候義ニ

(85頁)

御座候得は、御普請所勤同様太義仕候事御座候ニ付、御普

請所／勤之通昼扶持被仰付被下置候様、宜敷被仰談可被下

候、以上

午十二月

右積書之通、極月廿一日御寄合之上相渡候様相濟申候段、同

晦日／御年暮ニ罷出候節被仰渡候、尤銃菓并諸色共御武具方

より／通ニ而請取可申由、昼扶持、宿賃御勘定御判請手形ニ而、

薄縁ハ／痛引替ニ而受取申候事

一、志方卯之助、石井善藏兩人共内踏願指出置申候処、十二月

十日御尊／書相達申候処、兩人共上下用意召連候様申来、同

十二日寒入ニ付一同／船方出船致候処、風悪敷大矢浦ニ泊リ

同十三日朝着、同十四日御用相濟／稽古被仰付候段佐々申

遣候、同十七日拾匁筒ニ而稽古相仕廻同十八日／引取、夜入

帰宅致候、同十九日兩人共拙宅ニ礼ニ相見へ、長屋ニ而／祝ひな

と有り参候、及暮迄給へ京助も参候

一、極月晦日平戸渡海、御頭宗像平次左衛門殿御年暮ニ罷出候

文化八辛未年

一、正月元日四ツ頃登城、御礼相濟御年寄衆御年始廻リ

御役人方相仕廻

(85-1頁)

高ニメ 六石九斗七升式合七勺

合 拾七石九斗八升三合六勺

内拾五石

但御弓五人御取立被下置候御宛行

耆人ニ高三石宛ニメ

残ル分組用銀ニ被仰付可被下候、以上
(86頁)

同二日天气能、御組中

御礼ニ付御躰ノ間ニ罷出、相濟候^而御頭様御年始、打初メ

相仕廻御節被仰付候事

正月十五日渡海、同十六日大筒稽古相勤、五、六人宛五日内四

日ノ[■]、同一日玉込、正月廿九日迄三代^{リニ而}相濟、拙者廿七日

引取ノ正月廿五日御年寄衆、江戸下之者大筒御見分

御座候段被仰付、西口御屋鋪失(矢カ)場^{ニ而}御見分御座候

御家老 松浦藏人殿

御普請組頭

大小頭佐々

佐々

吉永斧左衛門

長村内蔵助殿

宗像平次左衛門殿

同川下

山鹿伊織殿

川下

岩崎善次兵衛

豊田隼人助殿

志佐岡右衛門殿

小頭佐々

横田直右衛門

同川下

高増平左衛門

一、拾文目二 三拾目二 四放宛

佐々 森兼助

百目二 三拾目二 四放宛

同 坂口富蔵

百目二 三拾目二 四放宛

同 真藤右伝次

拾匁二 三拾目二 四放宛

川下 松村六之平

百目二 三拾目二 四放宛

同 久田伊平次

三拾目二 百目二 四放宛 同 吉居銀左衛門
百目二 三拾目二 四放宛 同 青井三左衛門
三拾目二 百目二 四放宛 同 馬場林蔵

八人

病氣^{ニ而}不参

佐々 金子善右衛門

松村四郎右衛門

(87頁)

無滞御見分相濟、随分宜敷相見^へ申候段、被仰聞候

尚又心懸稽古出精仕候様被仰付候

一、昨廿三日御矢場拜見ニ罷出、御役人石田元助殿

引廻^{シニ而}、斧左衛門、善次兵衛、六之平、兼助、銀左衛門罷

出候

一、二月・閏二月・三月・四月、四ヶ月大筒稽古、一ヶ月

五日宛出勤

一、六月朔日登、二日方同十一日迄五月分と二ヶ月分ノ相仕廻

一、鎌辺田新田山下崩岩、浜辺通道筋支無之様開立

申度、石田形八内々相願申候^{ニ付}立合

未二月八日代官

庄屋

吉元茂平次 大浦宗助

初頭伝右衛門

吉永斧左衛門 横田直右衛門

小頭

石田兼右衛門

石田形八

右人数立合、先ッ内々^ニ開立申談候、追^ニ

田畑^ニ出来致候ハ、御竿入奉願候^ニ

相応之御高請候事

一、閏二月朔日古川右衛門兵衛殿御家内上下五人、武雄入湯行

御泊り、前広御頭平次左衛門殿方御状相達候^ニ付

(88頁)

一、二月廿六日金子善右衛門養子茂八・善次平殿家内方

請込、御頭様御目見へ、直代番願之通^リ被仰付候、尤右

願之時分組年寄、小頭中方書付指出候^ニ付願遣事

一、築出本渡瀬土肥下手、永石七右衛門屋敷願^ニ付、代官吉元

茂平次殿／御郡代川上八十七殿^江被相伺候処、所中支無之

候へ、仮屋敷／相渡可然との義^ニ付、未二月廿六日吉永斧左

衛門・庄屋大浦宗助・／横田直右衛門・出口継右衛門・栗

林初頭紋左衛門・七右衛門・小川義平／立会相渡候、以後

土肥筋龜抹等^も有之候節、何時^茂／取揚可申事書留置候

一、五月朔日江戸詰登出立、小頭真藤勇助・石田兼右衛門・出口

継右衛門・吉良要八・／真藤長左衛門^ハ五人、相神浦五人

佐々宿^ニ一同^ニ居申候、拙者義^も組用^ニ付／平戸へ罷越申候、未

乗船^も相仕廻不申由^ニ而、三日^ニは皆々引取、拙者義／仕廻出

来不申候^ニ付、同四日引取、勇助・長左衛門三人同道、洪水

にて川渡不相成、文治殿^ニ泊申候、又々五月十三日出立、同廿

六日出船之由、勇助・兼右衛門御献上才料被仰付候由／兼

右衛門義道中宮宿方相煩候由^ニ而道中延引、要八付添候由申

来候／三日程延引江戸表着之由、追^ニ申来候

一、五月八日田植申候、例年之通組中加勢、四ッ頃川下方使相見

へ申候処／妹今暁死去致候段申来、直^ニ参り洪水^ニ而川渡不相

成、半之助参り／新田^ニ行泊り、翌九日墓寺参り引取

(89頁)

一、大筒稽古之節、中倉平助方へ申遣候、相見へ申談稽古出精

致候様被仰付、六月四日方出勤、平助御先手足軽^ニ御座候処、

先達^ニ而／御組支配被指除、御武具方御支配^ニ而御徒士組被仰

付候由

一、御兼約^ニ付大筒稽古之義、一ヶ年^ニ三度^ニ被仰付段、被仰渡候、

七月方／二度当年迄^ハ臨時稽古玉薬相渡候、来年方臨時玉薬

不相渡候

一、未八月六日新地内見^ニ付、赤崎塩浜^も内見有之候^ニ付、いわし

淵願所内見／相頼候処、代官吉元茂平次殿・庄屋大浦宗助・

筆取石井祐左衛門・初頭幾之允・吉永斧左衛門立会／申候

処、畝数^も相極^リ願濟之事^ニ付、右畝数開立相濟申候上、御竿

入^も／相願可然との義^ニ付、当年見合可申事^ニ付、書留置候

一、赤崎喜右衛門塩浜新田、九月御竿入相濟候由

一、浜三反五畝、内五畝潮遊、引残三反浜高壺石五斗代之一ッ

成ノ定物成ニ相極リ、十三ヶ年御免之由、御奉行松尾要之助殿、御郡代大桑宇平太殿御立合

一、九月廿五日磯本市六殿・浦慶治殿・紫加田加吉殿・多々良与兵殿四人連ノ早岐帰リ一泊リ、翌廿六日帰

一、十一月廿五日夜、平戸魚店出火御座候処参リ合ヒ、夜九ツ頃承付、直ニ出浮申候処、鏡川松本懸持方焼出シ小川庵門脇迄焼払ノ本町通比丘尼橋迄両様共ニ川限リ不残焼払、尤牢屋ハ残、本家八十七軒焼申候由、稽古ニ付参合申候

(90頁)

一、十二月十三日稽古備立致、七ツ頃相仕廻引取、同十四日何も

引取ノ拙者延引、右伝次残

一、同十五日瀧右衛門三男初次郎、吉田村大藏院養子願書

指設置申候

一、十二月廿五日御頭宗像平次左衛門殿方御尊書相達申候処、来正月三日御備立被遊 御覽候旨、被 仰出候趣

申来候、同廿六日金子善右衛門詰代罷越候ニ付、右御請口上

ニ而ノ申越候

一、同晦日夜明出立、九ツ頃平戸表へ着ク、陣笠請取申候

例年之通御歳暮ニ罷出、御組中ノ樽肴、拙者家徳利一ツ指上^ゲ御盃、吸物被 仰付、及暮旅宿ニ引取、喜三次相見へ酒

など給へ

一、文化九年壬申年

正月元日五ツ半頃方雨降出シ四ツ過登城、九半頃御礼相濟御流ノ頂戴、八ツ頃下城、松浦蔵人殿、松浦直記殿御年始相仕廻旅宿ニ引取、飯事相仕廻榎坂・田原崎・大久保・小川・崎方御部屋之坂・堀江・西の久保・新道・高麗町迄年始廻、及暮候付ノ引取、組中相揃

一、重右衛門、四郎右衛門病氣ニ付、代番五郎治、勇右衛門登、外ニ親懸臨時登ノ京助・直平・為治・茂八・半之助ノ五人揃達、儀平詰代申達候

(91頁)

一、同二日天氣晴、四ツ頃方登城、御組中御礼ニ付例の通

御鐘の間ニ相詰、九ツ頃相濟下城、直ニ御頭ニ参リ、御鉄砲打初メノ一通相仕廻、明日備立装束ニて内稽古可仕旨ニ付五立ほど為打ノ相濟、御盃、御節被仰付及暮引取

一、同三日天氣晴、寒氣少々風立雪も打降、夜明七半頃飯事相仕廻ノ六ツ前御頭へ相揃、六ツ半頃榎木馬場ニ行、一番先ニ御座候、四ツ半頃よりノ御備相初、九半頃相濟、江戸詰代

ニは親懸指出、式拾人ノ相揃申候、京助、若党半之助小印持、八ツ過御屋敷ニ引取ノ無滞相仕廻申候、悦ニ樽肴等指上^ケ引取、旅宿ニ而神酒立ノ拙者初小頭中当役ニ而初御備ニ付、神酒

可相勵候、右之通被 仰出候間、御家中一統
承知有之候様、可被取計候 以上

正月 月番

大目付中

(94頁)

一、種子池谷山堺、近来若手存不申候ニ付、申正月十一日

老人坂口重右衛門手引^{ニ而}坂口留藏・白石領藏・真藤右伝

次・石井原藏・松村五郎衛^ノ右人数立合見覚ノ堺通、習置

候事

一、沖四番大井樋卷直、御免方時分積指出置候処、折原牧右衛

門殿ノ見分被致候処、願之通相濟、積帳扣置、申ノ十一月朔

日方仮土肥ノ取懸、石工百人、村夫四百人ほど明俵八百俵、

羽繩式拾束ノ委^{クハ}積扣^ニ有之候、酉三月頃成就致候事

小原大新田井手表土取場地替立会取極之事

一、上ノ手海道際方道通入、拾四間五尺

一、下ノ手右同、弥平屋敷端、拾式間壹尺

一、豎水車床方弥平屋敷端迄

右^者前方大新田井手表土取場所之内、右ニ相当り候

代地指出、永々屋敷ニ相渡候処相違無御座候、右間数

外之義^者、前方之通、土取場^{ニ而}御座候

右之通御立合之上相極候処、相違無御座候、永々
乱之義為無御座、如斯御座候 已上

(95頁)

文化九申六月

山本 弥平

内山 治左衛門 判

後藤戸兵衛 殿

吉永斧左衛門殿

大浦 宗助 殿

横田直右衛門殿

金子善右衛門殿

近藤吉右衛門殿

酉九月朔日 庄屋方請取

右書付拙宅へ預置候事

一、前間数

右^者大新田井手表土取場之内、前方右相当之代地

被指出、屋敷ニ相渡候処相違無御座候、右間数之外

田畔^{くろ}之方残地之儀^者、前々之通土取場^ニ付永々

違乱の儀無之候事

右之通相極り居候処、紛之筋^茂有之候^ニ付立合

相極申候処、相違無御座候 以上

(96頁)

文化九申六月

濱使 近藤吉右衛門

小頭 金子善右衛門

同 横田直右衛門

御庄屋 大浦 宗助

大小頭 吉永斧左衛門

御代官 後藤戸兵衛

山本 弥平殿

内山治左衛門殿

扣

御普請組坂口重右衛門・小浦肝煎利平・儀右衛門・老人利左衛門・一ノセ枋頭／立合、右之通相極申候事、内山^ニ酒など

出^テ給^ベ

一、大新田土肥^江櫛御植附^ニ相成申候処、右御植櫛根さらへ手入

等仕指上ケ／可申候^ニ付、赤崎横土肥之分畑方^江被仰付候様、

小浦森田兵之助弟／郷助名前^ヲ以相願候由伝承候中、才料近

藤左忠治方右願人／御座候^ニ付申達候段申来候^ニ付、口達書

^ヲ以相伺申候処、左之通

口達案伺

佐々大新田土肥^ニ櫛御植附御座候処、外潟塩濱^ニ築立御座候内

横土肥の分、畑方^ニ打明御免被下置候ハ、御植付櫛手入等仕度

相願候者御座候由、右躰の儀所々向々^{江茂}無沙汰勝手ケ間敷

(97頁)

相願候者へ御免被仰付候^{而者}、何分之義ケ仕出可申哉、大切

至極奉存候、勝手次第打開候^{而者}段々土洗下^シ土肥損^シ

ゑごも埋、水行の障り相成候^ニ付、御渡不被成候様奉存候、

尤櫛御植付被仰付、御為筋^ニ相成候儀御座候ハ、右場所

私方^江被仰付候^者右躰の所心^ヲ付、御植櫛見かじめ

被仰付罷有候、大新田井樋番其外御普請組者之中^江

申付、手覚悟^ニ櫛手入等之義^者無怠為仕可申候間

此段宜被仰達可被下候 以上

申 六月

吉永斧左衛門

何方へも相渡不申候

後藤戸兵衛殿

(98頁)

一、田村久馬右衛門殿、江戸御留守居被蒙仰御登リ^ニ付、京助若

党^ニ遣^シ／申候処、十月廿五日暁下関ノ下小倉地^ニ難船致

候由、十一月廿九日平戸表到来有、久馬右衛門殿上下無別

状、船加子式人、大坂之者／老人、物懸老人都合四人死失、

十二月七日平戸へ御引取、大小／着物不残捨^リ申候得共、無

難^ニ帰宅歛申候

一、出口継右衛門、十二月三日御頭詰代登申候処、少々醉居申

候哉、廣川／茂左衛門殿御屋敷裏門方入込候由、御若党御

付屋敷^江被遣候由^ニ而／殊^ニ酒^ニ醉居由、旁以不届^ニ被思召、旅

宿へ下候様被仰付候て／勇助同道^ニ而下居候途中^ニ而心得違

有之、屹度追込／置候様被仰付候、同日牧助人足付、宿

元へ返^シ追込置候事

(99頁)

一、横田直右衛門御暇願指出、尤引格願仕置候事、跡小頭牧助

兼助兩人之中、御目鑑^ヲ以被仰付候様、相願置候事

十二月廿四日御尊書相達候処、直右衛門、兼助・郷平・半之

助／御用申来候

十二月十六日坂口勇平・志方要蔵本組被仰付候

十二月廿八日横田直右衛門引格御徒士組被仰付、引入

右同日森 兼助小頭被仰付候事

右同日横田郷平・出口半之助本組被仰付候事

右御礼御樽肴、御祝儀兩人^ハ金三百疋宛相添申候

肴^ハ払底^ニ付^生鯛一折、塩鯛一折、外^ニ料^ニ而錢^ニ尅貫文、酒八

升／差申候事、兩人^ハ菓子一袋宛

一、対州御下向御役人様方御人数、^并江戸表御出立日刻

書付写シ在中

去

未年写書付扣置候

松平伊豆守様御領分、三州宝飯郡小泉村百姓万平

当辰百九拾五歳

右の者慶長七寅年出生 有徳院様御代竹千代様

御誕生の節被召出、白髪献上、百五拾人扶持頂戴

(100頁)

種始(姫^カ)様御入與の砌被召出奉献上候処、又候百人

扶持頂戴仕候て、弐百五拾人扶持

一、妻 百七十三才 子供 五人

一、惣領百五十三才 孫 拾八人

一、孫惣領百三才

右長命の儀者段々御吟味有之候処、別^ニ養生^も

不仕候、先祖方代々毎月両足之三里^江灸治仕候計^ニ而

外^ニ子細無之趣申上候節、灸治之事左之通り

朔日左^ニ 十一 二日左^ニ 十ヲ 三日左^ニ 十一 四日左^ニ 十一

右^ニ 十ヲ 右^ニ 九ツ 右^ニ 十ヲ 右^ニ 十ヲ

五 左^ニ 十一 六日左^ニ 九ツ 七 左^ニ 九ツ 八日左^ニ 八ツ

右^ニ 十ヲ 右^ニ 九ツ 右^ニ 八ツ 右^ニ 八ツ

右の通毎月灸治仕候得^者、無病長久先祖方伝候^ニ付
家内不残灸治仕候趣、当辰九月十五日

御公儀様方御尋^ニ奉申上候、但^シ大坂御陣之節、万平
拾四歳^ニ罷成候由申上候、寛政八丙辰年、右万平江戸
滞留の中対面、於在府久申遣候、右の通写取

(101頁)

文化八未年迄辰年方十六年ニ成る

文化十酉年

一、大公儀衆天文測量方、去申冬相神浦賤津

入込之由、正月十一日大别当方古川大新田土肥通り、小浦
真申迄磯辺通間縄引、暁七ツ時方御先払御組二人

指出、同十二日爰元入込、本蔵谷村屋敷御宿^ニ相成

御門番兩人宛差出、方々島々廻り之節、御先払

兩人宛指出候事、同十八日江迎御越、山ノ田迄

御先払兩人指出候事

一、大新田潮遊之内^江ししみ貝御放被成候由、種子貝

平戸方参り申候段、庄屋方申来

一、壱番はね、先、志方新田ゑご、いわし淵^{ゑご}口渡場

とん田ゑご御放

二月廿九日、代官後藤戸兵衛殿・庄屋大浦宗助・筆取濱之

喜右衛門・初頭幾之允・吉永斧左衛門立合申候事

(102頁)

文化八年迄辰年方十六年ニ成ル

一、申年江戸下拾人の中五人、中目録拝領、依之

吉良要人・真藤長左衛門^ヰ式人、川下三人金一両宛拝領被

仰付、残五人三步宛前詰之通被仰付事

右拾人^ニ而参拾目玉大筒一挺卷立被仰付候^ニ付、道元留蔵へ

申付／酉四月頃出来、代四百式拾壱匁、両組拾人方金子歩割

^ニ而／指出申候事

文化十酉年

一、去江戸下^ニ而三拾目大筒壱挺卷立被仰付、去冬方

道元留蔵^ニ被仰付、代銀四百廿壱匁^ニ而出来致候由、鑄形

壱膳込矢添、四月十五日^ニ成就、御頭宗像平次左衛門殿御方

へ相納り／代銀拾人拝領金高^ニ割合、払入相済申候事

一、出口半之助二月十六日風与病氣指起り引入、難相勤候段

御組中^方願^ニ付申達、四月^ニ御暇被下引入、右跡願

大借^ニ付、正米式拾表持出願^ニ申請置候処、牧助俵

直治相願申候由、五月八日赤崎井樋戸小家^ニ而年寄

(103頁)

林助取計^{ニ而}小頭四人方致承知候へ、米式拾表内拾俵

近々指出、跡拾俵へ追々指出可申候請合^{ニ付}、直治相願

吳候様との義^{ニ付}、明後十日平戸へ召連可申、相極申候事

同九日、儀平江戸暇乞^{ニ行}一泊、翌十日平戸登り、右

直治御組願、御樽肴差上ケ

一、五月十一日山本直治、本組被仰付候事

同十五日御組中祝盃有、直治方行

一、赤崎喜右衛門築立塩濱、森田兵之助^ニ相渡申候由、申六月

被仰出候御書付写扣

二引両の義^者、元方御家の御印^ニ相成居、殊^ニ丸^ニ二引

御紋^者、御衣類^{ニ茂}被為附候御事候間、御庶流の中

是迄附来候面々^者格別、其外右御紋^ハ勿論、二引

之儀^者一統私之印等^ニ相用候義、可致遠慮旨被

仰出候

右の趣御家中末々迄承知仕、後々猥之儀無之

様可被申触候

五月

月番

大目付中

(104頁)

役馬廻以下、立身・加増・御合力・御心附被下・改名・死

失／其時々支配有之面々、勘定奉行中^江其趣申達候

事、御頭方被仰付候^{ニ付}書留^メ置候

西七月

西七月五日、御頭宗像平次左衛門殿、御用勘定奉行

被蒙仰、大坂御留守居被仰付候、九月十六日平戸出船

同廿五日着坂の由、頭附真藤長左衛門、京助若堂^{ニ而}御供

登り致候事、御留守中、沖大右衛門殿御預り

一、十一月六日夜、佐世保山中役次郎と申者、夫婦子供兩人、

親子四人殺^シ、家^ニ火を／懸ケ焼払申候由、就右御吟味役衆御

越御座候由、相神浦吉岡／馬場林蔵弟崎次郎^答相成、其外

懸り合も有之由

一、西八月十二日、石田兼右衛門、出口喜三次内踏被仰付候

同日直^ニ大筒稽古、同十四日引取、同十五日右兩人善右衛

門召連拙宅へ相見へ

一、西閏十一月十二日、正福寺^江鏡(鐘^カ)引有、古今珍敷人寄

警固相願ひ被申候由^{ニ而}、御郡代衆方代官衆申来候由、戸兵

衛殿方／申来、正福寺方慮善師使僧^ニ相見へ、吉良要人・

白石領蔵兩人差出申候事、正福寺住寺大病

(105頁)

之由、同十七日遷化被致候

右鏡引^ニ付、春明方^ニ左平次殿、喜七殿夫婦、家来共五人連

左衛門殿父子、藤江殿親子三人、小佐世保方三人見物^ニ相見候、五人へ泊り／同十四日鏡保養^ニ被呼行、式百銅包行候

文化十一戌年 正月六日夜森田作之進殿出火

丸焼の由、武器へ出候由

一、正月例之通御礼、打初相仕廻、二日^ニ者預り頭沖大右衛門殿

物一ツ被仰付候事／就右一樽三升、生鯛一折差上申候事、御頭留守^ニ而者例之通／御盃・吸物・御節被仰付候^而及暮引

取、同三日帰宅、夜入菅右衛門殿母／死去^ニ付、明四日御組中盃・節、延引致候／同十一日御組中年始相見へ申候、例

之通吸物・盃・節致候事

一、二月七日、石井善蔵倅丈助、御普請場見習相願申候^ニ付、内分^ニ而申渡、拙宅へ相見へ樽肴杯遣

一、三月八日 洪徳寺出火、不残焼払、門計残由

一、三月十日、金毘羅祭、家内籠り申談候、春穠共右之通申談事
一、同廿六日 勘定^ニ付船方平戸へ出船、島内泊り、同廿七日着

(106頁)

船致候

一、江戸相達申候処、久家林助儀、於江戸二月廿五日自死失致

候段／申来候^ニ付、早々留守^ニ申遣候

一、右跡、父方従弟年廿九、左平太と申者後家人相談有之候由、願^ニ付仮御頭様中嶋小左衛門殿^江申達置候処

大阪^江御釣合被成候由^ニ而

一、四月三日曉、柴田要四郎殿出火、稽古^ニ而登居合

仮御頭沖大右衛門殿、御頭留守御見廻申上候

戊同四月十三日仮御頭沖大右衛門殿方相達候 写

被仰出写

連年打續御公私之御物入多、御勝手向不一通り

御難^ニ而者、御領分中御用銀等も每度被仰付、一昨年ハ

御省略^ヲも嚴重被仰出候、然処御家中歩上之義^者

御先代厚^キ以思召御返被置候義故、容易不被仰出候義

候処、当節至次第御繰詰^ニ相成、一向御凌方不相見得

上^ニ而甚御苦勞思召候、依之何^茂難義可存、不御本意

義乍御心外、先年歩上之通、当戌年方来子年迄三ヶ年

上米被仰付候間、家事取続等質素第一相心得、御奉公

向之義怠無之様精々可相勤旨被仰出候

(107頁)

仰出写

連年打續御公私の御物入
 多、御勝手向不一通御難渋_ニ
 付_{而者}、御領分中御用銀等
 毎度被仰付、一昨年_者
 御省略_{ヲも}嚴重被
 仰出候、然処御家中歩上之
 義_者 御先代厚_キ以
 思召御返被置候義故、容易
 不被仰出候義候処、当節至
 次第御繰詰_ニ相成、一向御凌方
 不相見得
 上_ニも甚御苦勞思召候、
 依之何も難義可存不御本意
 義、乍御心外先年歩上之通、
 当戌年方来子年迄三ヶ年
 上米被仰付候間、家事取
 続等質素第一相心得、御奉公
 向の義怠無之様、精々可
 相勤旨被仰出候

附、右之通被仰出候処、年若

之面々ハ文武修行等不行

届義も可有之候得共、銘々

勘弁_ヲ以無油断可相嗜候

義、肝要 思召候 以上

四月七日

(108頁)

- 一、四月廿三日、沖大右衛門殿、御用新組被成御預、相神浦御
 普請組／中嶋小左衛門殿被成御預候段申来候、同廿四日兩
 度御状相達／同廿五日渡海、拙者、真藤勇助、出口喜三次
 三人／同廿六日御引渡、佐々組直_ニ御預被成申候、双方_江樽
 肴等差上
- 一、久家左平太、御目見得相濟、大坂釣合の筈
- 一、左平太義六月廿二日、本組被仰付候事
- 一、六月十六日暮過、風吹出大風、高潮満、大うて堀留居候_而
 大氣遣、拙者・原蔵・人足・赤崎居申喜右衛門娘、加勢はた
 らき申候／得共不及手、併大新田無別条、大井樋橋石潮打越
 申候、かね手方／蔵ノ下迄惣越、いわし淵土肥、長拾間ほど
 立_テニわれ申候、原蔵下／拾五・六間洗申候
- 一、光明寺塩濱新田、三ヶ所打切、古濱土肥惣こし、あやうく相

見へ由

- 一、かねの手塩濱ニケ所打切、取塩等不残打流申候
- 一、兵之助新田三ヶ所程打切、住居家洗崩シ
- 一、大別当三ヶ所打切、田方皆捨
- 一、志方常平所一ヶ打切、翌十七日方取懸同十八日潮留
- 右の外所々家居吹つぶし、馬屋、小家大痛、大木吹こかし

(109頁)

- 近数年ノ大風、大船小船人痛、数不知取沙汰ニ而、珍敷事ニ候
- 同十七日所々見分風見廻、志方常平所新田土肥量上ケ
- 折原牧右衛門立合見分、積出、小浦古濱土肥右同断、立合
- 見分積出、何茂積、前之通御普請相済来候、追々
- 御普請取懸、志方新田頓平江請負被仰付候事

- 一、大別当七月八日塩留有之、兼右衛門・形八・形右衛門。

順蔵加勢遣候事

- 一、光明寺塩浜、七月十日塩留、真藤勇助御組三人加勢遣候
- 一、かねの手塩浜八月七日塩留、十人程加勢、何方無滞

塩留ニ而御座候

- 一、十月六日中嶋小左衛門殿方御尊書申候処、石田形左衛門麻
- 上下御用ノ申来、直ニ小頭善右衛門方申遣候処、形右衛門
- 眼病ニ而相勝不申ノ御請登リ不相成趣ニ而、其趣書状ニ而御答
- 申上候、同十三日ノ渡海、同十四日罷出相伺申候処、拙者方

ニ而申渡候様被仰付候

- 一、同十六日、善右衛門同道形右衛門相見得申候ニ付、願通内踏
- 被仰付段ノ申渡候、御書上之義、去ル八日頃書上筈ニ御座候
- 一、九月四日、十一月八日、九日小筒、大筒稽古広庭ニ而相済
- 一、江戸下十月廿一日平戸着之由、同廿四日引取、同廿五日
- 拙宅へ相見得申候
- 十一月十日夜大雪、西ノ岳筋つもり申候様子ニ相見へ申候、夫

(110頁)

- 打積寒強、九月廿日頃方雨天、雪雨ニ而押詰迄、しみしみ
- 天気無御座候

- 一、篠崎奎之丞殿 出火有

- 一、十二月廿五日夜 鳥居平内殿出火有リ

- 一、同廿八日夕七ツ頃、山ノ田火事、小屋小屋迄不残焼払

- 一、深江與五平殿大坂詰被蒙仰候由、十一月廿三日平戸

出船之由ニ付、御頭御交代ニ相成可申候

(111頁)

文化十二亥年

- 一、正月元日雨天四ッ過登城、御札相済御流頂戴、八ッ過
- 下城、御三家御老衆御年始相仕廻、夕方御組中
- 相揃勇助・原蔵・郷平、病氣不參

一、 同二日御組中例の通御礼、打初相仕廻、当年方上米も

被仰出候^ニ付、御頭節も相止、御土器計^ニ而相濟、就右樽肴等も／例之半分差上申候、仮御頭中嶋小左衛門殿^江酒壺升五合

小肴添、拙者小頭中吸物、御土器被仰付／御頭留守^江酒五升、鯛一折上^ゲ御年始へ罷出、吸物、土器／被仰付候、引取小宿^ニ而

一、 御頭宗像平次左衛門殿、去極月廿四日大坂御乗船之由、正

月十七日／平戸^ニ御着之趣^ニ而同廿一日平戸登り、拙者・善右衛門・勇助・兼助・／形右衛門・嶺左衛門・勇平・佐平^ベ七

ツ頃着、形右衛門御屋敷^江遣、京助・長左衛門・／利三次無滞御儀^ニ而下り、同廿二日御祝詞樽肴上^ゲ、拙者は／一樽、鴨

一羽別段指上申候

同廿五日御道具引入、大筒参拾目壺丁、拾弍弍丁、小左衛門殿方／請取申候、樽肴差上申候、同廿六日引取

一、 二月四日、大新田土肥櫓為見分、折原牧右衛門殿被相越候由^ニ付／庄屋御面談、得と及内談置候、尤去秋時分書付ヲ以

申達置候筋^ニ付、見分被仰付候由

(112頁)

一、 二月廿四日御頭様方御頼、垣塀地覆出来、積登り、拙者も

登り、船中方風^与相勝不申候処、足痛^ニ而及難義候、五・六月頃漸／全快致候事

一、 四月廿一日、要吉殿相見得被申候処、小平次殿頼久吉事、志

佐調川／永安十平殿申仁方所望^ニ付、遣可申返答致候処、来

ル廿七日引越／相談^ニ付、其通相極申候^而遣申候、拙者足病^ニ

而京助、喜助、要吉／三人遣申候、同廿八日引取

一、 三月九日、御頭様方御状相達申候処、左之通申来候

御普請組小頭老人、御鉄砲之者九人、五月初旬平戸出船、

六月初旬／江戸へ着致候様、去巳年被仰出候得共、以来六七

月初旬平戸出船／八月初旬、江戸着致候様可被取計候 以

上

三月

月番

御普請組頭中

右の趣申来候^ニ付、同十三日儀平詰代登^ニ付右御請

申上候、御組中へ申渡候

小浦諸川常蔵、鍋座相願申候由之処、被成御免、右屋敷立見

崎石場下^ニ相願申度、見分致呉候様申来候^ニ付、小頭善右衛門、

牧助兩人遣候処、差支無御座場所^ニ相見へ候由^ニ付、指免候、然

ル処／其後赤崎深浦口^ニ致候由^ニ而、六月頃方取懸り、十月初

而なべ鑄立有之候事

(113
頁)

一、繩竹渋紙六枚稻卷

九枚藤作二十間共ニ

三貫弍百九拾六文

一、錢四百六十四文

伏見迄下シ賃

一、同四貫三百二十六文

京方伏見迄下シ賃

一、同八百弍拾四文

大坂上荷賃

一、同三貫七百八文

大坂方国迄下シ賃

一、同六百拾八文

大坂方京江三貫目

■ ■ 賃

弍百四拾貫三百文

般若経諸入目